

第 1 7 回教育委員会（定）

開会日時	令和 6 年	8 月	1 日（木）	午後	1 時 0 0 分
閉会日時				午後	5 時 0 2 分
開会場所	教育支援センター				

出席者

教 育 長	長 沼 豊
委 員	高 野 佐紀子
委 員	青 木 義 男
委 員	野 田 義 博
委 員	善 本 久 子

出席事務局職員

事務局次長	林 栄 喜	地域教育力担当部長	雨 谷 周 治
教育総務課長事務取扱参事	諸 橋 達 昭	学 務 課 長	金 子 和 也
指導室長	富 田 和 己	新しい学校づくり課長	柏 田 真
学校配置調整担当課長	早 川 和 宏	施設整備担当副参事	彼 島 勲
生涯学習課長	太 田 弘 晃	教育支援センター所長	石 野 良 惠
中央図書館長	松 崎 英 司		

署名委員

教育長

委 員

午後 1時 00分 開会

教 育 長 皆さん、こんにちは。本日は4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから令和6年第17回の教育委員会を開会いたします。

本日の会議に出席する職員は、林次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育総務課長事務取扱参事、金子学務課長、富田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校配置調整担当課長、彼島整備担当副参事、太田生涯学習課長、石野教育センター所長、松崎中央図書館長の、以上11名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、青木委員にお願いします。

本日の委員会は21名から傍聴の申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたので、お知らせいたします。

本日の会議時間は、板橋区教育委員会会議規則第11条に基づき、通常は午前10時から正午までのところ、午後1時から午後5時までと変更いたします。

なお、本日は長時間の審議になるため、出席職員は、業務の都合上、会議を中座することがございますことをあらかじめご了承ください。

また、議事運営の都合上、15時15分頃、休憩を挟み、審議を進めてまいります。

それでは、議事に入ります。

○議事

日程第一 議案第26号 令和7年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について

(指導室)

教 育 長 日程第一 議案第26号「令和7年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について」審議します。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 指導室長でございます。

それでは、説明をさせていただきます。

公立学校において使用する教科用図書の採択は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号により、所管の教育委員会が行うこととなっており、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条において、当該教科用図書を使用する年度の前年度の8月31日までに行わなければならないと定められております。

また、採択した教科用図書は、種目ごとに、4年間は同一の教科用図書を使用することになっております。

小学校は、昨年度、採択替えを行い、今年4月から新しい教科用図書を使用しております。今年度は中学校の採択替えを行う年度となっております。

なお、特別支援学級においては、学校教育法附則第9条及び同法施行規則第139条に基づき、検定済み教科用図書または文部科学省著作教科書を使用することが適当でない場合は、他の適切教科用図書を使用することができるとされてお

り、毎年度、採択できることになっております。

今年度は、採択事項（１）令和７年度区立小学校使用教科用図書、採択事項（２）令和７年度区立中学校使用教科用図書、採択事項（３）令和７年度特別支援学級使用教科用図書を採択していただきます。

事務局では、採択一覧の（案）を作成いたしました。

資料の１をご覧ください。

発行社が記入されている種目については、令和６年度に引き続き、令和７年度から使用する教科用図書として採択していただきます。

発行社名が空欄の種目については、今年度採択替えを行います。

次に、特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、資料２の東京都が調査研究した教科用図書及び資料３の文部科学省著作教科書と当区の教科用図書調査委員会が調査研究した教科用図書、そして、それ以外で、区立小中学校が調査研究した教科用図書について採択していただきます。

説明は以上でございます。

教 育 長 まず採択事項１、令和７年度区立小学校使用教科用図書について審議します。
指導室長から説明願います。

指 導 室 長 区立小学校の教科用図書につきましては、昨年度、採択替えを行いましたので、原則に基づき、来年度も現在使用している教科用図書と同じものを採択していただきます。
以上でございます。

教 育 長 質疑意見等ございましたら、ご発言ください。
よろしいですか。

（なし）

教 育 長 それではお諮りいたします。採択事項（１）令和７年度区立小学校使用教科用図書については、令和５年度に採択をした教科用図書を使用します。
令和５年度に採択した教科用図書は、次のとおりでございます。
国語、東京書籍、書写、東京書籍、社会、教育出版、地図、帝国書院、算数、大日本図書、理科、東京書籍、生活、東京書籍、音楽、教育芸術社、図画工作、開隆堂出版、家庭、開隆堂出版、保健、大修館書店、英語、東京書籍、道徳、日本文教出版、以上を採択することにご異議ございませんでしょうか。

（異議なし）

教 育 長 それでは、そのように決定します。
次に、採択事項（２）令和７年度区立中学校使用教科用図書について審議しま

す。

指導室長から説明願います。

指導室長 区立中学校については、今年度は前回の採択替えから4年たちますので、採択替えを行います。

なお、令和5年度の文部科学省の検定を合格した教科用図書は10教科、16種目、71種類でした。

それでは、種目ごとに審議をお願いします。

教育長 審議に入る前に、ここで進行に関してお諮りいたします。

審議に関しては、種目ごとに仮採択とし、全ての種目の審議が終了後、全種目を一括して本採択として決定することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教育長 それでは、そのようにいたします。

では、まず国語の審議に入ります。

指導室長、お願いします。

指導室長 国語につきましては、4社でございます。

東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書出版から採択をお願いします。

教育長 それでは審議に入ります。

では、まず高野委員、お願いいたします。

高野委員 国語の教科書の前に、全般的な教科書を選ぶに当たって、今回、私は、教科書を使って教室で学習する際に、子どもたちが主体的に学ぶことができるもの、そして、教科書を使って1人で学んでいく自学自習にも適しているもの、また、板橋区授業スタンダードの流れに沿っているもの、小中のつながり、SDGsへの取組、二次元コードの使いやすさなどの視点に配慮して、教科書を読み比べてまいりました。

また、教科書調査委員会の調査研究報告書や学校調査研究報告書、区民アンケート、また、日頃から実際の授業を参観したときの様子などを参考にして考えてまいりました。

それでは、国語についてです。

国語は2社、三省堂と、それから、光村図書出版がよいのではないかと思います。

まず、三省堂ですが、1年の34ページのように、本文の後に学びの道しるべというところがあります。

目標から振り返りまで、見通しを持って、主体的、対話的に学習に取り組むス

トップが示されています。生徒、先生にとっても単元の流れを把握しやすいというふうに考えました。

また、下の段に、「思考の鍵」というのがありまして、考えを整理したり、深めたりする方法を各学習活動と関連づけながら取り上げています。

また、2つ目の理由として、「読み方を学ぼう」というところがあります。

22の読み解くための方策を積み重ねて学習できるようになっています。

1年の44ページの「ペンギンの防寒着」というところは、小学校で学習した説明文の読解の基礎基本を確認できる教材で、中学校への円滑な接続を図っています。

2年では「宇宙に行くための素材」、3年では、「批判的に読むとは」という文章がありますが、そこは文章中にマーカーや、点線、傍線を使って構造を分かりやすく説明し、次の学習につなげています。先生の説明がなくても、自分で読み込む力をつけることに役立つページだと思います。

あと、各学年、第一単元に共通して、グループディスカッションも位置づけて学習できるようになっています。

1年では「話題や展開に沿って話し合いをつなげる」、2年が「互いの考えを尊重しながら話し合いを深める」、3年では「合意形成に向けて話し合いを計画的に進める」というふうに、発達段階に応じた話し合いのコツの発言例が的確に示されているので、3年間を通して学ぶことで、国語の学習以外の他の教科や委員会、部活動などの話し合いで生かすことができると思います。

先日、中学生生徒会交流会に出席しましたが、短い時間の中で、自分たちの意見をまとめ、堂々と発表する姿はとても立派でした。話し合う力、発表する力が、これからの生活の中でとても大事な力なので、国語の学習でこのような力を育成していければいいなというふうに思います。

また、資料編では、「読書の広場」は、小さな図書館など、3年間で283点の図書を紹介しています。

また、小倉百人一首は全て掲載されています。著作権と引用や、社会生活に生かす資料など、参考資料が多数掲載されていて、資料編が充実しています。

また、二次元コードが多数掲載されていて、巻末にコンテンツ一覧表があり、分かりやすくなっています。

デジタル漢字ドリル、デジタル文法ドリルなどは、繰り返し問題に取り組めて、知識の定着を図ることができます。

以上の点で、三省堂がいいのではないかと思います。

もう1社、光村図書出版です。

1年の28ページのように、各教材で見開き2ページを使って、右側に学習の流れを見通しを持って読み深め、交流を通して自分の考えを持ち、最後に振り返りをする学習の流れが示されています。

左側は学習のポイントを図解で整理した「学びのカギ」があり、学習内容を深めることができるようになっています。

授業時間の復習をしたり、1人で学習することができます。

また、1年の16ページから、「言葉に出会うために」という、小学校から中学校への円滑な接続教材が設定されています。

その後、24ページから「はじまりの風」という物語が載っていますが、これは主人公が中学生になったばかりの物語で、小学校で学習した物語の読み方を思い出しながらかける、小中の接続にふさわしい内容になっています。

各学年で国語の力試しというところがありますが、1年間に学んだ内容を練習問題で確認することができ、自学自習に適したページとなっています。

さらに各ページの二次元コードから発展問題に取り組むことができるようになっています。

二次元コードが多数用意されていて、裏表紙の内側にICT活用のヒントと一覧表があり、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことに分けて解説をしています。

単元の扉のページの下に、1年生では、「彩る」など、動きを表す言葉、2年では「もえぎ色」など、色の名前、3年では「黎明」などのときを表す言葉を、それぞれ写真とともに紹介しています。

また、各学年、四季それぞれの「季節のしおり」というページがあり、俳句、和歌、詩など、季節を感じる作品と、1年では植物や動物にまつわることが、2年では行事と暦、3年では気象にまつわる言葉が載っています。

また、各学年に「語彙ブック」という小冊子形式のページを設けて、語彙を豊かにする学習ができるようになっています。

以上の点で、光村図書出版がよいのではないかと思います。

教 育 長 ありがとうございました。
では、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 国語の教科書ですが、いずれの教科書も国語で重要と言われている、話す、聞く、書く、読む、こちらの項目ごとに単元が整理されておりまして、それぞれ教科書会社ごとに、何を重点的に学ぶのか、そのようなことが分かりやすく示されているというのが今回の教科書の特徴かなというふうに思いました。

その中で、幾つか、大体大きさはみんな同じでございます。若干重さが違って、内容の分量が違うというところです。

例えば東京書籍は少し軽い感じなのですが、この新編の新しい国語、これは言葉の力を確実に身につけて、未来を切り拓くことのできる子どもを育てるというようなことに主眼を置いているようです。

特徴としては、QRのコンテンツですね、これで個別最適な学びを実現するというような工夫が見られていることを感じました。

続きまして、光村図書ですが、こちらの特徴は4つの力というので代表されているなというのを感じました。

個別最適化の学びという、例えば国語力ですとか、QRと個別最適、それから、語彙力、それから、教材自体の力というような4つの力というような特徴を持た

せようとしています。

国語力に関しては、課題解決のための資質・能力、これが身につく手引き、これを提案されていて、学習のポイントを見える化した「学びのカギ」、それから、3つの観点で評価する理解の設定などを工夫されています。

それから、QRコンテンツや個別最適化の改定というか、改新につきましては、端末上で回答することができる「書くことのミニレッスン」とか、いわゆるCBT形式で取り組める国語の力試し等が収録されていて、学校外での学び、それから、振り返り、これを実現しやすくしているなということを感じました。

それから、語彙力につきましては、思考力や表現力を高めて、使える語彙を増やすための「語彙ブック」、これを新設されております。この辺の工夫が見られるなということです。

教材につきましては、やはり今回注目されている対話的学び。対話が生まれ、現代的課題に向き合えるような教材を増やしているということを感じた次第です。

こちらは、かなりよくできている教科書だというふうに感じました。

それから、もう1つ、特徴的に感じたのは、三省堂です。

こちらは、少し内容が充実している感じです。

「現代の国語」という表題で、「読み方を学ぼう」とか、思考の方法など、課題解決のために活用できる方策を分かりやすく、視覚的にページを使っているというふうに感じました。

特に私が注目したのは、例えばそれぞれの単元の中でテーマ、グループディスカッションのですとか、レポートの書き方、スピーチに対して、それから、行事案内、あるいはグループ新聞などという項目ごとに単元を挙げまして、授業外で行う、でも、実践から評価まで生徒たちが体験できるような項目の適切な作成手順などを解説されていて、実践的学びにつなげられているなということ強く感じました。

これは現場の先生にとっても、授業の中で教えられることのみならず、学校行事全体を通して、国語力、特に読み解く力等を着実に学びにつなげていくためのとてもよい考え方ではないかなと思いました。

また、学習の手引きを相互に考え、交流を深めて活動を盛り込んだと、それから、各学年の第一単元にグループディスカッションを置いているところ、これは今回の学びの中で特に重要視しているところ、これを各学年ごとにマイルストーンというのを置いて、話し合いの方法を系統的かつ段階的に学ぶことができる作りだなと思いました。

さらに、二次元コードの参照のサイトでは、動画や音声、それから参考資料に加えて、漢字、文法ドリルなど、多様な学びに役立つコンテンツを用意されているというふうに感じまして、個別最適化、それから、体験的な学びという意味で考えてみますと、光村図書と三省堂。

特に私は三省堂がよいのではないかというふうに感じました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。
では、野田委員、お願いいたします。

野 田 委 員 よろしくをお願いいたします。

国語について、私からの意見を述べさせていただきます。

初めに、現在使用されている教科書、教科用図書調査委員会の調査研究報告書、学校調査研究報告書、そして区民アンケートを事前に拝見し、それらを参考にしました。また、保護者の立場から、家庭での学習や自学自習の教材としての利用を視野に入れ、各社の教科書を確認いたしました。

審査の観点としては、板橋区教育ビジョン2025を意識し、板橋区授業スタンダードに沿った構成になっているか、単元ごとの学習の見通しが立てやすいか、また教科書を通じて学習の本質を理解し、自らの力として習得できるかを重視しました。

細部に関しては、委員の皆様のご意見を伺ったうえで、必要に応じてコメントをさせていただければと思います。

今回、国語の教科書については各社とも、目標設定や考え方、まとめや振り返りといった板橋区授業スタンダードに基づいた授業がしやすい構成になっていると感じました。今回の採択で、私は三省堂、光村図書の順で推薦したいと考えています。

まず、三省堂の教科書についてですが、読み解く力の育成を意識し、段階的に思考方法を積み重ねていくことで、読解力の向上が期待できる教材であると感じました。各学年の第一単元にグループディスカッションを取り入れ、話し合いの方法を学べる構成は、学級活動の充実にも寄与すると思います。また、人物相関図や三角ロジックなどの図解形式は、小学校で使い慣れた手法であり、目標を理解した後の自主学習に活用でき、さらなる理解を深めるために有効であると感じました。

各学年の第6単元では、情報を関連付けたテーマが設定されており、協働的な言語活動を通じて主体的に考える力を育成する工夫がされています。さらに、巻末には学習の振り返りに役立つ「学びに向かう力を育てよう」や振り返りシートが用意されています。内容的にも、各学年で多様な読み解き方を段階的に学習でき、思考方法を具体的に示すページが設けられており、考える力を深める構成になっています。デジタルコンテンツも豊富に用意されており、繰り返し学習ができるよう工夫されています。

また、資料編には小倉百人一首が掲載されており、古典に親しむ機会が提供されています。さらに、メモを活用する、質問の仕方、話し合いの形式を選ぶ、手紙、はがき、メールの書き方など、社会生活に生かせる知識も丁寧に解説されており、実用的な内容となっています。視覚的にも、カラーユニバーサルデザインが施されたカラフルなイラストや図解は、苦手意識の克服や興味を引き、学習内容の理解を助けられていると考えます。

次に、光村図書の教科書についてですが、学習の流れやポイントを視覚的に整

理する工夫が随所に施されており、「学びのカギ」として見開き2ページで学習の流れとポイントを図解している点が理解しやすいと感じました。これにより、学習の見通しが立てやすく、内容の理解が深まることが期待されます。また、各学年で設定されている「情報×SDGs」の小単元は、社会的課題への意識を高め、実践的な学びを促す内容となっており、第7学年では SDGs 行動宣言の作成、第8学年では災害時の情報収集、第9学年では実用文と報道文の比較を通じて、社会と学びがつながるよう工夫されています。

文法や漢字学習をサポートする二次元コードが各学年に配置され、ICT を活用した学習がしやすい点も特徴です。また、年間で学んだ内容を確認する練習問題や発表問題も二次元コードで提供されており、自主学習を推進する良い補助教材になっています。さらに、視覚的にはカラーユニバーサルデザインが採用され、古典教材や行数を数えやすくする工夫もなされており、使いやすさが配慮されています。

まとめますと、推薦しました三省堂、光村図書の順に、これらの教科書は、さきに申し上げた観点から、教科書の構成は板橋区授業スタンダードに沿った形で構成され、特に定着していただきたい、話し合いによる他者との意見交換を通じて主体的に考える力を育成すること、まとめ、振り返り、アウトプットについて、教科書で学習した内容が今後の学習につなげやすい表記になっていること、現代社会や現代の社会的課題に対する意識を高めて、実践的な学び、そしてICTの活用を促す内容になっているなど、各社共に同じような視点で内容を検討されている中、学校現場で生徒が読みやすく、先生が使いやすいという視点も考慮し、以上の評価となりました。

私からは、以上となります。

教 育 長 では、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしく願いいたします。善本です。

私は、今回、初めて教科書採択の議論に加わらせていただくに当たりまして、先ほど来、委員の皆様がおっしゃっていた教科用図書調査委員会調査研究報告書であるとか、学校の報告書等のいただいた資料に加えて、それぞれの教科書の内容に関する客観的な単元数であるとか、ページ数の割り振りなどについては、東京都教育委員会が出されている資料も参考にさせていただきました。

今回、学習指導要領が改訂になって2期目の言わば採択に当たるわけですが、特に国語に関しては、この学習指導要領の改訂で、領域に大きな考え方の変更がありました。

それまで、もちろん話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3つに分かれていたものを、この3つに関しては、思考力・判断力・表現力等の中に含めると、そして、知識や技能として言葉の特徴や使い方とか、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する手法というのが、知識・技能の側に外出しするような形でまとめられたというような変更があって、これらのことが非常に国語科にとっては大き

な変更だったと思うのですが、改めて4社の教科書をじっくり拝見して、いずれもこのような変更が2期目に非常に定着していて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことが、思考・判断・表現の中で育まれていくということが非常にどの会社の教科書もよく整理されているというふうに感じました。

その中でも、私は2つの教科書について優れていると感じるところがありましたので、そちらについて、まず簡単にお話しさせていただいて、また、委員の皆様のご意見も伺いながら、その都度、私の考えていることもお話を申し上げたいと思います。

目録の発行社の番号順に、1つ目は三省堂の教科書についてです。

こちらについては、先ほど申し上げた知識及び技能の内容の中に含まれた言葉の特徴や使い方に関する事項が、単元として最も多い49単元で取り上げられているということで、今回の学習指導要領の狙いでもある、語彙を増やして豊かに使えるようにしようという点で、言葉の特徴や使い方に非常に力を入れているところ、語彙を増やしていく今の学習指導要領の考え方に合致しているところ、非常に魅力を感じました。

また、全体のページ構成を見ていると、色が変わっているのも非常に分かりやすいのですが、三省堂は、巻末の資料が、4つの会社の中で非常に充実して、分かれていて、充実しているというような状況になっていて、これは1つには、生徒が自分で参照したいと思ったときに、資料が非常にまとまって見やすくなっているということが読みやすさにつながるのではないかと同時に、読むことに関する作品、言わば文学作品のようなものがだんだん本編から少しずつ少なくなっていく傾向というのがありますが、この巻末の資料の中にそうした作品が取り上げられることで、読書活動の充実ということが今言われているわけですが、もちろんそれは文学的な文章に限らずですが、興味関心を持ってそれぞれの生徒が個別に発展的に読んでいくというような学習をしていくことが可能になるような作りになっているところ、非常に優れていると思いました。

また、言語活動に関する資料が非常に充実していて、言語活動を活発にしているということが、もう前の学習指導要領から言われて長いわけですが、言語活動に関するページに関しても非常に充実した内容であるというふうに感じています。

また、今回の学習指導要領の中で初めて項目として多く取り上げられた情報の使い方について、GIGAスクール構想の流れの中で、施策の中で1人1台端末が実施されていて、一方で、子どもたちが情報の扱い方をどうしていくかというふうなところも非常に課題になっているわけですが、その中で情報に関する扱いに関しては、三省堂は本編の中での取扱いは少なめなのですが、これも巻末に充実した資料をつけることによって、本編と同様に、自分で自主的に学んでいくことができるような内容になっています。

また、三省堂に関しては、話すこと・聞くことといった、これまであまり時間を取りにくかった部分に関しても教材の内容が非常に充実している、話し合いをするということが大切であって、話し合って問題を解決していくということに関して、非常に充実した内容で書かれているというところは魅力であるというふう

に感じました。

こうしたことから、非常に新しい時代に合致した指導のあり方というものが考えられていると同時に、板橋区の特徴として、板橋区授業スタンダードの充実であるとか、問題解決的なスタイルの学習にもかなうような教材が取り入れられているのではないかというふうに考えています。

一方、教科書の目録番号というところの4つ目の光村図書についても、大変優れているところがあるというふうに感じました。

光村に関しては、話すこと・聞くことに関する教材の量が4社の中で最も充実していて、19点の教材が、それぞれ話すことと聞くことの中で取り上げられている。そしてまた、書くことに関しても同じように充実されている。

これまでどうしても国語の授業というのが読むことに比重を置きがちであった中で、話すこと・聞くことの教材を充実させて、生徒たちが主体的、対話的に学びに取り組んでいくことができるような教材になっているというふうに思います。

また、書くことの領域の中で、説明的な文章や実用的な文章の教材数が多く、これは様々なご意見がある中ではありますが、今の学習指導要領の改訂の考え方に合致していて、生徒が説明的な文章や実用的な文章を論理的に読み解く、読み解く力の育成ということが板橋区の中でも非常にうたわれていますので、その場合には、やはり論理的に読み解くこと、そして、それをきちんと説明できるようにしていくような教材が充実しているということを読み取って感じました。

また、光村図書に関しては、詩歌が非常に充実した教材で設定されていて、言葉の感覚を磨くというような点で、この部分は非常に優れているのではないかなというふうに感じました。

一方、これから先、学校の教育の国語において、漢字の取扱いをどうしていくかというふうなことは非常に色々な意見ができ得ることではないかと思います。

小学校段階では、文字を書けるようになること、あるいは正確に読めることを非常に重要視して育成してきていますが、これだけデジタル化が進んで、1人1台端末があって、手で書くことと同時に、デジタルで打ち込んでいくことが多くなったときに、漢字の取扱いをどうしていくかということに関して言うと、非常にページ数が多くて漢字の量が多いということが、もしかしたら知識・技能の重視というようなメッセージなのではないかというところが懸念されるところではあります。

ただ、非常に教材が充実していて、様々な教材を読ませることで、板橋の狙いである読み解く力の育成という点では非常に充実しているなというふうに感じました。

そして、いずれの教科書会社もSDGsの取扱いを、極めて国語に関しても明確に取り入れていますので、その点に関しては、これもまた板橋の方針にかなっているということで、その部分に関しては、どの教科書会社も遜色ないなというふうに感じました。

そのような観点を含めて検討したときに、三省堂と光村図書に関しては、大変、どの教科書会社も非常によく作られていますけども、中でも優れた教科書だとい

うふうに言えるのではないかというふうに感じました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。

それでは、私の方ですが、昨年は教育委員の側で小学校の採択に関わりまして、そのときにも申し上げましたが、国語にかかわらず、全体的にどのように採択に臨んだのかについてです。まず、今の学習指導要領になって、主体的・対話的で深い学びを実現していくということが求められています。これがやりやすい教科書を選ぶということが、第一にあります。

その学習指導要領が出た後に出た中央教育審議会の答申「「令和の日本型学校教育」の構築をめざして」という中に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実というのが書かれています。これも意識して選ぶ必要があります。

とりわけ個別最適な学びということでは、板橋でも不登校の児童・生徒が1,000人を超えて、対策を打ち出してはおりますが、家庭の学習でも見る、あるいは、保健室ではない別室を用意して、そこに子どもたちで来られる子は来てくださいということをやっていますが、そこでは仮に教員がいなくても、自分で教科書を読み進めるということが可能なものを選ぶ必要があるという意味で非常に大事になってきます。

また、対話的な学びや、協働的な学びを進めるためにはディスカッションをしたり、意見を集約して、出し合ってまとめていったりする、そういう表現力を培うようなものも含めた学習形態が求められていますので、そのような学びにも活用できる教科書を選ぶ必要があるということです。

様々な観点がございますが、委員の皆様からご指摘をいただいた板橋区の授業スタンダードに適合するとか、あるいは、板橋区で、区全体で力を入れているSDGs、環境教育に資するもの、これは教科を超えて実践されるべきものですが、そのようなものが含まれているものを選んでいくという姿勢で今回も臨みました。

国語に関しては、まず、現在使っているのが三省堂のものですが、どの会社も、4年前と比べて分かりやすく、読みやすい内容に改訂されましたが、三省堂のもそのように感じました。

例えば1年生を見ますと、最初のところ、16ページのところに、「思考の方法」というのがありまして、思考力・判断力・表現力が重視されていますが、ここでは様々な思考の方法が具体的に書かれていまして、これを見て、生徒たちが、自分たちがどのように考えて、それをまとめて発表するのかというところが分かりやすく書かれているのが特徴と見ました。

同様に、思考力という点では、同じく1年生の106ページになりますが、「読み方を学ぼう」で三角ロジックが取り上げられていて、ここでは、主張と事実、そして理由づけという三角形で考えましょうということが具体的に書かれています。そして、他の生徒との対話、あるいは協議、ディスカッションなどにも有効に活用できるようになっていて、107ページにあるように、論理的な思考力を鍛えようということが明確に書かれているというのが特徴と見ています。

また、これは野田委員からも指摘がありましたが、全学年で小倉百人一首を資料編のところに掲げています。古典に親しむという観点から、しかも全学年に、100首、全部取り上げられているということで、どの学年でも小倉百人一首を活用した取組ができるというのもメリットと思います。

それから、どの学年も第1単元はグループディスカッションという単元になっていて、それぞれの学年で、自分たちの学級の課題も含めて話し合いができるようになっています。

これにつきましては、板橋区では、学級活動の日というのを設けて、全校で実施するということが始まりましたので、かなり重視しています。

ですから、学級活動の話し合い活動に資するような構成になっているということは大変ありがたいと考えられます。

それから、国語で大事、国語だけではないのかもしれませんが、その教科で培ったことがいかにして社会に役立つものなのかということ、つまり学校で習っていることが単なる知識ではなくて、実際に社会とどうつながっているのかということ国語でも提供してくれている題材がありました。

例えば3年生の306ページの資料編ですが、著作権と引用という項目がありまして、ここで具体的に社会生活と言語という視点で、著作権ということについて捉えられるということで、学んだことが社会生活にも生かされるということ、まさにこの307ページには社会生活に生かすと具体的に書かれているわけで、他にもございますが、工夫されていると感じました。

それから、同じく3年生、118ページになりますが、古典の教材の中で工夫が見られると思うところは、いわゆる地の文は黒字なのですが、口語訳は青字になっている、こういう細やかな配慮があり工夫されていて、古典の教材に取り組む際に、非常に教えやすいのではないかと思います。

また、先生方の調査報告の中でも、今、三省堂の教科書を使っていて、課題があるという声はなく、とても使いやすく、先ほど善本委員からお話があったように、4つの力をきちんとつけることが可能な教科書だという評価もいただいていますので、そのこともポイントと思いました。

もう1つ、光村図書の方で、こちらは、例えば1年生の28ページを見ますと、学びへの扉というページがありまして、学びの見通しを持つということが書かれています。

見通しを持った上で捉えること、深める、考えを持つ、振り返るという手順で進めていくという学習の流れが非常に明確に書かれているところが分かりやすいところです。

このことは、板橋区の授業スタンダードとも適合しますので、この教科書を使えば、板橋区の授業としてはやりやすいということがございます。

また、1年生の78ページを見ますと、「情報×SDGs」ということで、ここにはSDGsのマークも含めて、取り上げられていまして、社会の中でSDGsをしっかりと実現していこうということが、これは板橋区全体でも進めています、この教材を通して、国語の授業の中でも取り上げることができるというの

がメリットと思います。

あとは例えば3年生の6ページのところですが、これは全学年同じなのですが、冒頭のところで、学習の見通しを持とうということで、今度は年間を通じて見通しを持つという視点に立っているわけです。ここで全ての教材の一覧表ができていて、そこで何を学ぶのかということが明確です。さらにSDGsのマークも入っているということで、本当に至り尽くせりの優れた教科書だと思います。

もうこれは先生方の指導書と言ってもいいのかもしれませんが。これを見ながら、先生方が全体の指導計画を立てることができるというもので、もちろんこれは生徒も自学自習できるようになっているわけです。どのような資質能力を伸ばしていくのかというのが明確に取り上げられていて、工夫されて分かりやすいと思いました。

このような理由から、両社とも非常によくできているのですが、私も三省堂、それから、光村図書を推したいと思います。

以上で各委員からのご発言が終わりましたが、2社、三省堂と光村図書を推す委員の方が全員ということです。特に野田委員からは、順番があって、三省堂が1番で、2番が光村図書。

青木委員も、どちらかというとな三省堂というご意見がございました。

ですので、三省堂と決めたいところですが、念のため、慎重を期すため、もう一巡しますので、どちらかということでご発言いただければと思います。

高野委員、お願いします。

高 野 委 員 私は、現在、三省堂を使っているということで、三省堂でよろしいと思います。
光村図書は、本当に内容も充実していて、使っていただきたいと思うのですが、先生方が三省堂に慣れてきて、十分に活用の方法なども検討されているというお話を伺っておりますので、引き続き、三省堂がよろしいのではないかと思います。

教 育 長 青木委員、いかがでしょうか。

青 木 委 員 はい。私も基本的に同意見です。

やっぱり現場では、使いやすいということは非常に重要ですし、先生方も、今、三省堂に慣れているということとか、先ほど申し上げた意見も含めてなのですが、やっぱりこの教科書で、板橋が考えている教育に近いというふうに判断できたのは三省堂の方かなと、どちらかというのですが。

以上です。

教 育 長 野田委員、お願いします。

野 田 委 員 私の方も、先ほど申し上げましたとおり、三省堂の教科書を推薦させていただきます。

やはり教科書の研究が非常に精力的に行われておりますので、こちらの方をさらに定着していただきたいと思っていますので、今回は三省堂を推薦させていただきます。

教 育 長 善本委員、お願いします。

善 本 委 員 はい。私も、国語の授業が、今、大きな改革を求められているというときに、そのことに対して非常に積極的な姿勢というものが三省堂の教科書の方に感じられますし、前回の改訂で採択されたという流れを考えたときに、この方向性をしっかりと板橋区の教育で根づかせていくというためには、継続して使用されて、また、先生方のより一層の研さんも進んでいかれるということが望ましいのではないかという観点から、三省堂を推薦したいと思います。

教 育 長 私も同じく三省堂です。

私は特別活動の研究もずっとやってきましたし、学級活動に資する第1単元は非常に大きな意味を持つと思っておりますので、三省堂を推したいと思えます。ということで、国語については三省堂を仮採択することにご異議ございませんか。
(異議なし)

教 育 長 それでは、国語については三省堂を仮採択することにいたします。
次に、書写の審議に入ります。
指導室長、お願いします。

指 導 室 長 書写につきましては、4社でございます。
東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書出版から採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは、青木委員からお願いします。

青 木 委 員 はい、承知しました。

私は、4社の中から、先ほどの国語の教科書の採択の際にも少し申し上げた国語とのつながりですかね。

それから、さらには視点としては、多分、書写のみにこだわらず、広い分野にわたって、この書写と学校活動や何かとのつながりですね、この辺を意識している会社さん、これは全て4社がその辺を強く表に出してきているという特徴がそれぞれございますが、この中で注目したところを少しお話しさせていただきます。

まず、光村図書ですが、別冊に「書写ブック」を作っておられます。

これは毛筆を定着できるように、硬筆で書く活動、これを多く盛り込んでおられます。

「書初めマスター」というのでしょうかね、なども工夫が見られまして、これが生徒にとっては、一つ一つ、この書写に対して身近、かつ段階的な学びにつながる

がっていくモチベーションになるのかなというような気もしております。

書写についての情報が多彩なだけでなく、ユニバーサルフォントですとか、防災フェスタなどという、最初に申しあげました他の教科との連携、これを意識したコラムを工夫されている点が注目したところです。

また、多彩なQRコンテンツ等で、書写の学びをサポートしている点も注目すべき点だということでございました。

QRコンテンツについては、私が申しあげることはないのですが、両社ともそれぞれ、どんどん充実していますし、中身自体を全て見ていたわけではないのですが、動画も含めて、特に書写の方は、書き方等を分かりやすく説明しているものが多かったかなというふうに感じております。

続いて、三省堂です。三省堂は、先ほどの国語のところでも取り上げたところですが、この現代書写は、書いて身につけようを中心に、国語との密接な連携を図られています。やはりここが注目すべきところでした。

国語の教科書は三省堂もそうなのですが、学校行事での実践的な学び、これに生かす工夫が見られておりまして、やはりこの教科の学びというところは、自分の授業以外の部分でも、様々な学校活動の中で、国語でこれを学んだよねとかといって先生が取り上げやすい、あるいは、国語の授業で、行事についての手順ですとか、そのようなものが説明されていたりすると、勉強したよねというような形で、忘れていた子たちは、それを見直すことによって、もう一回学び直しができるというようなサイクルをうまく回すことができます。

書写についても同様かと思います。単純に、書写のみならず、これが学校活動、行事の中でどのように使えるか、そしてどのような点で生かせるのか、色々なところで使えるなと思うと、生徒は当たり前ですが、便利だなという形で興味関心を示す。このようなところで使ってみようという形で記憶に残るという形もあろうかと思います。

三省堂はQRコンテンツの中で、左利きの子ども向けの運筆の解説動画、これは多様性に配慮した工夫ということで注目させていただきました。

このような細かい点がQRコンテンツの中では非常に大事ですし、多様性という点では、単純に見ただけでは、書写のような技術的な面がかなり強く出る面については、なかなか身につくのが難しい面もあろうかと思います。

頭の中で分かっているが、手の運び、このようなところが何となく分かりにくいといったような、特に左利きのお子さんというのは、その辺が非常に重要なのかなと思ひまして、この辺が非常に重要だというふうに感じた次第です。

まさにQRコンテンツをうまく生かした例かなというふうに思いました。

毛筆で、あと、習得したことを、他教科の学習、それから社会活動でとにかく活用できるように、硬筆による書き込みページというのを全教材に配置しているということも注目すべき点でした。

とにかく、いわゆる毛筆というのが注目されがちな書写ではありますが、硬筆とのつながり、硬筆で書くことでどんどん、いわゆる書くことについての抵抗感がなくなるような、あるいは、書きながら、自分のいわゆるノートテイクですね、

この辺の充実にもつながっていくというようなことを意識させるような書写の教科書というのは、非常によい作りなのかなというふうに思いまして、私は光村図書、三省堂の2社を推薦させていただきたいと思います。

国語の教科書とのつながりという面では、この中では、三省堂さんを共通で使うというのがよいのではないかなというふうに感じました。

以上です。

教 育 長 では、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 書写について、意見を述べさせていただきます。

国語の教科書と同様に、現在使用されている教科書、教科用図書調査委員会の調査研究報告書、学校調査研究報告書、区民アンケートを事前に拝見し、参考にいたしました。また、保護者として家庭学習や自主学習の教材としての活用も視野に入れ、各社の教科書を検討いたしました。

審査の主な観点は、板橋区の授業スタンダードに沿っているか、單元ごとの学習の見通しが立てやすいか、お手本が見やすいかという点です。

細部に関しては、委員の皆様のご意見を伺ったうえで、必要に応じてコメントをさせていただければと思います。

今回の採択では、国語との関連も考慮し、三省堂と光村図書をこの順で推薦したいと思います。

三省堂の教科書については、書写の学習を段階的に充実させる工夫があり、特に「書き方を学ぼう」のセクションでは、楷書と行書の時系列を明示し、書き方を分かりやすく解説していました。これにより、教師にとっても分かりやすく、生徒が実践的に書き方を学びやすいと感じました。

また、毛筆の学習で得た技術を硬筆に活かすための「書いて身につけよう」セクションには、11種類の書き込み教材が用意され、他教科や日常生活での活用を促していると感じました。このようなアプローチが書き方の定着を助け、学習の幅を広げる効果があると考えています。

さらに、教科書の構成が明確で、実用漢字や書初めの手本が見やすく配置されている点、ICT の活用や特別支援への配慮も充実している点が評価されます。毛筆のお手本は見開き2ページで掲載されており、右側に解説、左側に手本が配置されているため、視覚的に分かりやすく設計されています。また、高校での学習の接続やカラーユニバーサルデザインも取り入れられ、中学校教育における書道の目的を的確に押さえていると感じました。

次に、光村図書の教科書については、書道の学習を基礎から応用までしっかりとカバーし、生徒の段階的な学習を促進するため、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3ステップなど、さまざまな工夫が随所に見られました。また、漫画教材や別冊の書写ブックを通じ、生徒が主体的に学びを深め、実生活でも活用できる内容が含まれている点が印象的でした。

さらに、二次元コードや音とリズムを用いた工夫によって多様な学習スタイル

に対応し、視覚的なサポートも充実しているように感じました。UD フォントや地域表記に関する工夫もあり、読みやすさを向上させ、地域への関心を持たせる要素が加えられている点も効果的です。

以上の観点から、書写の学習に必要な要素をバランスよく取り入れた教科書であり、生徒の理解と技術の向上、そして実生活での活用に役立つ教材であると感じました。

また、各社共に、巻頭に学習の意味と目的が明確に記載されており、筆で書くことの良さや書写の今後のあり方や考え方の変遷を感じさせる内容になっていました。

硬筆に関しては、学び方や自主学習の進め方において、国語の教科書との関連が強く、お手本を見て正しく書くことを重視し、教科書に直接書き込めるスペースも設けられている点が評価できます。自主学習もしやすい構成になっており、授業の進めやすさや理解のしやすさが向上することが期待されます。

毛筆についても、筆遣いの音声化や筆の入れ方・力の入れ方について、工夫された表現で分かりやすく解説されており、この点は非常に優れた配慮だと感じました。これらの点は、教員にとって授業で使いやすく、生徒にとっても自主学習で取り組みやすい教材であると考えられます。

私からは以上になります。

教 育 長 では、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いします。

それでは、目録の順番に、私が拝見して推薦したいと思う教科書についてご説明いたします。

1 つ目は、まず三省堂の教科書なのですが、国語の教科書では三省堂だけ見開きのところに詩が掲載されていないという様式を取っていたのですが、書写の方で、手書きの文字風で、他の教科書会社に載っている谷川俊太郎の詩が載せられていて、非常に親しみを持って詩に取り組めるような、まず、そこから入るという設計になっています。

何か、書写の勉強というと、非常に身構えるような雰囲気がある中で、もう少し気楽に始めようというような方向性が感じられて、また、この三省堂の特徴は、私も非常にいいなと思ったのは、10 ページなのですが、鉛筆の持ち方とか、これは筆もそうなのですが、正しいお手本とすべき望ましい持ち方というのは非常によく出てくる、あるのですが、この三省堂は、A、B、C、D と 4 種類あって、望ましいのは A の持ち方で、B と C と D は望ましくない持ち方の例が出ていて、実はこういう持ち方をしている生徒が結構いるのですね。

自分たちは、この持ち方じゃない方がいいなというふうに思わせる。しかも、そこに解説動画がついているということで、こういう望ましい持ち方という言い方をして、決して否定しないで、でも、こうじゃない方がいいんだなということを示すような教材があるというのは、非常に今の時代にはぴったりの教材じゃな

いか、作り方だし、動画ができているというのも非常に新しいという意味でいいなというふうに感じました。

それから、もう1つは、ちょうど真ん中の52ページと53ページなのですが、今回の小学校の学習指導要領の改訂で、漢字に関して言うと、一番大きかったのは、小学校4年生の段階で、47都道府県の名前を、全部、漢字で書けるようにするというふうになったことなのですね。

恐らく大人の人で47都道府県の漢字を全て正確に書ける方って意外と少ないのではないかと思いますので、今の小学生は、今回の学習指導要領から、小4で全て習うということになった。

それを改めて文字で鉛筆でなぞりだけしようという項目が、真ん中のちょうど52ページ、53ページに設置されていて、実は今の学習指導要領だと、これができるようにならなければいけない、その新しい考え方が、非常に端的に示されているという意味で、子どもたちにとっても、もちろん常用漢字については整理してどの教科書も書いてあるのですが、47都道府県名を取り出して、これをなぞりだけしてみようというような表現で、身近なものとして身につくように、小学校で学んだことが身についていることを確認できるような作りになっているという意味で、「現代の書写」というタイトルがついていて、このタイトルにふさわしい、今の時代に必要なものは何かという観点から作られている教科書だというふうに感じて、この教科書は非常に今の時代にふさわしいものだなというふうに感じました。

それから、もう1つは、4番目の光村図書ですが、これはもう先ほど来皆様からお話がありますように、別冊の書写ブックが設けられるなど、非常に手厚い、そうしたことがつけられているのに加えて、ちょうどこれも真ん中の見開きのところの88ページ、89ページでしょうか、先ほども言及された方がいらっしゃいましたが、「手書きのよさって、何だろう」ということで、手書きのよさを漫画で説明することで、手で書くことが非常に少なくなっているが、この字体のよさというものを説明できている、そういう内容になっているのと同時に、文字はその人を表す個性でもあるという視点から見て、104ページ、105ページのところに、自分らしい文字というところがあって、それこそお手本になる文字というのはあるけれども、それぞれの人が自分の個性を出した文字というものの、有名な方々の文字なのですが、紹介することで、お手本となる形はあるけれども、文字というものが個性の発露でもあるというような、多様化の時代にふさわしい、そのような教材が入っているというところも、とても行き届いた、また、子どもたちにとっても、親しみの持てる教材なのではないかなというふうに感じました。

どの教科書も非常に、お手本から、作りから、指導の考え方まで優れているところではありますが、そのような意味では、この2つの三省堂と光村図書の教科書について、特に優れている点というものを感じましたので、ご推薦いたします。

以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高野委員 書写ですが、4社の教科書をどちらも拝見して、まず姿勢と構え方、筆、鉛筆の持ち方、構え方、筆の運び方、用具の扱い方が大きな写真を使って詳しく示されていて、大変分かりやすくなっています。この点は、4社とも共通していると思います。

また、お手本ですとか、二次元コードも十分に用意されていて、各社、全て使いやすい教科書となっていると思います。

その中で書写は、国語の学習と関連づけて使用するページもあることから、国語で採択された三省堂がよろしいのではないかと思います。

三省堂の中で、まず全ての教材に学習目標と振り返りが設定されていて、学習の流れが分かりやすくなっています。

振り返りのところで29ページでは、字の大きさとか、配列について学んだこのページの振り返りでは、字の大きさもまちまち、行がずれているというようなお手本があって、それを学習したことを意識して、左に書き直してみましようというようなことになっています。

また、43ページでは、行書を習ったので、行書で書いてみよう。53ページでは楷書で書いてみよう、学習した内容を実際に振り返りを使って書いて、振り返るといところが大変よいのではないかなと思いました。

あとは、18ページの毛筆で学んだことを硬筆に生かそうというページがあります。硬筆で書くページでは、ページの右端の下のところ、「姿勢に気をつけよう」といって座っている絵、それから、「持ち方に気をつけよう」という、この鉛筆を持っている絵、これは巻頭で、写真とか、そういうものを使って説明されているのですが、そこに戻らずに硬筆で字を書くときに、常に姿勢と持ち方を意識しながら書けるような工夫がされています。

あと、この18ページ、「毛筆で学んだことを硬筆に生かそう」のように、毛筆で学んだことを硬筆で繰り返し練習することで、学習内容の定着を図ることができるになっています。

また、「書いて身につけよう」というところがあるのですが、ここでは毛筆で練習したことを、29ページでレポートを書いて、50ページでは47都道府県名を書く、60ページで暑中見舞いはがきを書いたり、他教科の学習や日常生活で活用できるような硬筆の書き込み教材がたくさんあるという点がいいと思います。

あと、「書いて身につけよう」のお手本が、28ページの「空中ブランコ乗りのキキ」、44ページ「竹取物語」などのように、国語の教材の一部となっていて、国語の授業との関連が意識されている教材になっています。

あと、もう1社、光村図書出版が大変よかったなと思いました。

別冊があるということで、大変使いやすく、いいのではないかなと思いました。

あと、52ページの「行書スイッチを入れよう」というページがあります。

ここでは、点画の連続とか、筆順の変化、点画の省略、点画の変化などを4色に色分けして表記することで、生徒が視覚的に分かりやすいというところが工夫

されていて、他の教科書と比べて、この点が大変いいなと思いました。

また、41ページとか55ページなどのように、筆の運びのところを、トン・スウツ・トンとか、ピョンピョン・ピタというようなオノマトペを使って表記しています。これは、中学生にとっても分かりやすいのではないかなというふうに思います。

また、88ページの「手書きのよさって、何だろう」は、漫画教材で使うなど、生徒が親しみを感じながら学ぶところができ、大変工夫されているなというふうに思いました。

その他にも、82ページの「全国フォント見つけ隊」や、90ページの「全国文字マップ」など、写真を多く用いて、分かりやすく、生徒に身近な地域の様々な表記に関心を持たせるページがあるなど、この点もいいなと思いました。

私は、国語の教科書との関連で、三省堂が一番ということでお願いいたします。

教 育 長 それでは、私の方ですが、皆さんと同じです。

国語との関係を考えますと、先ほど国語は三省堂が仮採択になりましたので、書写も三省堂がよろしいと思います。

全ての教材で、最初のところで学習目標が書かれ、そして、教材の終わりには振り返りになる言葉が書かれているということで、板橋区では、他の区もそうかもしれませんが、若い先生、初任の先生もたくさん入ってきていまして、若い先生でも授業がしやすいということを考えますと、こういう作りはとてもメリットがあると思います。

また、先ほど来、国語でも申し上げたとおり、板橋区の授業スタンダードにもしっかり適合していると思います。

それから、68ページの、身の回りの文字という教材がありまして、これは花火大会のこととか、新聞とか、古文書とか、自分たちの身の回りにあるワープロの文字も含めて考えて、視点を当てて捉えるというのが教材としても非常に工夫されているという印象を持ちました。

また、70ページにあるように、仕事との関連で看板職人さんですとか、タイプデザイナーさんが出てきて、書写の教材を通して、それを仕事にしている方々のこともしっかり学びとして構成されているところも非常に大事です。というのは、板橋区ではキャリア教育もしっかり取り組んでいまして、小中一貫教育を進める中で、キャリア教育の資料も作成しております。

私も助言者として関わったのですが、そういう視点で捉えると、このようなものも入っているということは非常に有益で分かりやすいと思いました。

また、硬筆で書くところに関して言うと、書き込む形になっている部分は、非常に紙質もよくて、書きやすいような工夫もされていると思います。

さらには、44ページを見ますと、グループ新聞を作ろうということで、協働的な学びを大事にしていますが、個人で書くということではなくて、ここではグループ新聞を実際に4人から5人のグループで作るという課題が出ています。

こういうところも板橋区でこの教科書を使えば協働的な学びが進むだろうと捉

えております。

光村図書ですが、こちらは、34ページに学習の進め方というページがありまして、非常にこれが分かりやすく、考えよう、確かめよう、生かそうという、こういう手順で進めていく、「中学書写スタートブック」と書かれているページ、その下を見ると、「タブレットを活用しよう」ということで、1人1台端末が当たり前のように使いこなせるようになってきまして、各学校ではタブレットを活用するところは書写でもあるということです。非常に分かりやすく、こういうページがあるということはメリットだと思います。

また、109ページには、日常に役立つ書式ということがあるのですが、ここに手紙の書き方とか、色々並んでいるのですが、入学願書の書き方というのが114ページにあって、多分9年生になったときに使うのかもしれませんが、こういう細やかな配慮も、この教科書はとてもいいと思うところです。

また、キャリア教育という視点では、先ほどと同じですが、こちら86ページを見ますと、すし職人さんが出てきて、職業ガイドを作ろうという課題が出されています。

それから、50ページを見ますと、これも特徴的でしたが、行書と楷書の違いを見つけようということで、左側に行書、右側に楷書、これが並んで書かれているというのが特徴的でした。

こういう細やかな配慮もありまして、毛筆で書く場合にも、こういうページがあると、先生方も使いやすいし、生徒たちも、ぱっと見て、この2つが並んでいるところが非常に分かりやすいと思いました。

ということで、この2社を推しますが、他の2社も含めて、4社とも非常に工夫されていて、いい教科書に仕上がっていて敬服いたしました。

やはり国語が三省堂ということですので、関連的に使うとなると、同じ会社を選んだ方がいいというところがございまして、皆様も、青木委員は三省堂で、高野委員もですね。

高野委員 はい。

教 育 長 野田委員も、どちらかというと三省堂ということで、私もそうです。善本委員はいかがですか。

善 本 委 員 三省堂でよろしいです。

教 育 長 よろしいですか。

善 本 委 員 はい。

教 育 長 では、書写につきましては、三省堂を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、書写につきましては、三省堂を仮採択することにいたします。
では、次に、社会（地理的分野）の審議に入ります。
指導室長、お願いします。

指 導 室 長 社会（地理的分野）につきましては、4社でございます。
東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版から採択をお願いします。

教 育 長 では、まず野田委員、お願いします。

野 田 委 員 社会（地理分野）について、意見を述べさせていただきます。
現在使用されている教科書を中心に、教科用図書調査委員会の調査研究報告書、
学校調査研究報告書、区民アンケートなどを事前に拝見し、それらを参考にし
ながら、保護者の立場から家庭学習や自主学習の教材としての活用について、
各社の教科書を確認させていただきました。
審査の観点としては、板橋区教育ビジョンを意識し、板橋区授業スタンダード
に沿った流れで構成されていること、單元ごとに学習の見通しが立てやすいこ
と、教科書を通じて学習の本質を理解し、自らの力として身に付けられるかど
うかを重視して確認いたしました。
詳細な点については、委員の皆様のご意見を伺いながら、必要に応じてコメン
トをさせていただければと思います。
各社とも、板橋区授業スタンダードに沿った授業が実施しやすい構成であり、
写真やイラストも適切に配置され、情報量も豊富でした。また、主体的・対話
的で深い学びを得るための場面や活動の設定に工夫が見られた印象を受けまし
た。
そのような観点から、今回の採択においては、私の意見として、教育出版と東
京書籍をこの順に推薦させていただきます。
教育出版の教科書については、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに
向かう力の3つの資質をバランスよく育成する構成になっていると感じました。
また、持続可能な社会や郷土愛をテーマに、環境教育とも関連付けている印象
を受けました。教材には、社会科の他の分野との関連も明記されており、発展
的な内容や自学自習に役立つセクションが充実しています。視覚的にもユニバ
ーサルデザインフォントを採用しており、デジタルコンテンツによって動画や
関連リンク、確認問題などが豊富に提供されており、教科書を使った自主学習
を推進する際に有用な情報源になると考えました。
次に、東京書籍の教科書ですが、学習内容が知識、思考力・判断力・表現力、
主体的に学習に取り組む態度の3つに整理されており、これにより生徒がバラ
ンスよく学べる構成だと感じました。特に「スキルアップ」や「地理の見方」
といったコラムが設けられており、地理的な見方や考え方を育成しつつ、実践

的な議論を深められる内容となっています。また、「未来にアクセス」というコーナーでは、持続可能な社会を考える視点から、環境教育や郷土愛に関連した学びが示されており、生徒が社会課題について主体的に考える機会を提供していると感じました。さらに、この教科書にも二次元コードが多く取り入れられており、写真や動画、ワークシートなどを活用することで、教科書を使った自主学習に役立ち、学習の理解を深める内容になっていると考えました。

まとめとして、板橋区授業スタンダードに沿って段階的に学習の見通しが立てやすく、学習がスムーズに進められる構成となっています。調べ学習の目的も明確で、写真やイラスト、グラフ、資料が読み取りやすく、特にカラー写真が視覚的に状況をイメージしやすいと感じました。以上のような評価とさせていただきます。

私からは以上です。

教 育 長 では、善本委員、お願いいたします。

善 本 委 員 よろしくお願いします。

それでは、先ほど目録順といったことで申し上げましたが、皆様の議論で、より上位に推薦するものがあれば、その方からお話しした方がいいかもしれないというふうに判断いたしましたので、これに関しては、そのようにお話をしたいと思います。

地理の教科書について、いずれの教科書も、まさに主体的、対話的で深い学びを進めるに当たって様々な工夫がされていて、思考力・判断力・表現力を重視する方向性、主体的に学習に取り組む態度を評価できるような教科書の作りになっているというふうに感じました。

また、板橋区で大変重要視しているSDGsについても、いずれの教科書も大変丁寧に取り扱ってくださっていて、その点で、本区がめざす教育活動においては、どの教科書を使っても非常によい教育ができるというふうに感じました。

その中で、特に2つご推薦申し上げたいと思いますが、最初に推薦いたしますのは教育出版です。

この教育出版については、内容の構成の中で1つ非常に大きな特徴があることがありまして、世界地図の中で取り上げられている国の数が他の教科書と比べて突出して多くなっています。

他の教科書が120か国台なのに対して、教育出版だけが196の国を取り上げているということがあって、広く世界を知るという意味で、様々な国が取り上げられているということは、これからのグローバル化がどんどん進む時代を生きる子どもたちを育成するという意味では、大変よいことなのではないかなというふうに思います。

また、社会の窓が53か所設けられていて、発展的な内容を学習できることに加えて、さらにもう一步踏み込んで、思考力・判断力・表現力を高めるトライというコーナーが全体で6か所設けられていて、地理分野について興味関心を持つ

た生徒がさらに進んで学習を進めるようなことも可能な作りになっていて、また、各単元の終わりにある学習のまとめと表現の中では、学習内容を今の評価の観点である知識・技能と思考・判断・表現、主体的な学習に取り組む態度で整理できるような構成になっていて、その3つの、今新しい学習指導要領になってから、知識・技能と、思考・判断・表現と、主体的に学習に取り組む態度のこの3観点で評価していくんだということを生徒たちに非常に印象づけられるような内容になっている。そういうことが教育の流れがやっぱり変わっていくという中で、非常によく考えられて作られているかなというふうに感じました。

もう1つ、推薦いたしますのは、目録で言えば、最初の東京書籍です。

東京書籍については、各章が、課題をつかむ、課題を追求する、課題を解決するという3つの学習のプロセスで構成されていて、今の社会科の教育に非常に求められている課題解決的な学習がしっかりとできるようになっています。

それから、これは先ほどの教育出版も同様なのですが、東京書籍と教育出版のこの2社に関しては、これからの時代に私たちがやっぱり学ぶこととして重要視している災害に関することも取り上げが非常に手厚いと、災害に関することが手厚く取り上げられ、またさらに一歩進んで、東京書籍は、目次の3ページの下に、それぞれの目次にマークがついていて、「アスタリスクのページでは、火山の噴火、地震や津波、土砂崩れなどによって起こった災害の写真を扱っています。ご指導の際にはご配慮をお願いします」といったことも書いてあって、災害を扱っていることは非常に重要な視点でもあります、そのような配慮もなされている、そのような意味で非常に行き届いたことができている教科書だというふうに感じます。

また、そのもっと知りたいという内容が34か所設けられていて、発展的な内容についても学習ができる。

また、二次元コードが非常に多く、133個記載されていて、様々なデジタルコンテンツをこの教科書を通じて活用できるような作りになっているというふうに思います。

そういう意味で、板橋区授業スタンダードの中の自力解決、集団解決、まとめ、振り返りというような考え方に合致した教科書と言えるのではないかと思います。

その意味で、東京書籍の教科書を2番目に推薦したいと思います。

私からは以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 地理の教科書ですが、現在、小学校では社会科は教育出版、中学校では、地理が、教育出版を使っているの、教育出版がいいと思います。

まず、教育出版の教科書というのは紙面が大変読みやすく、重要語句が大きな太字で目立っていて、大変分かりやすい点。小学校からの接続という点では、2ページに「地理にアプローチ」というのがあります。これが小学校で習った地図の決まりや地図帳の使い方などを思い出して、中学校での学習へつなげていく

という点で、小中の接続という点でも大変いいのではないかと思います。

教科書は、本文が見開き2ページでできていて、左ページで、真ん中にタイトルと学習課題が示されています。

右のページの下の方に、「確認」「表現」という振り返りの取組があって、学習の流れが大変分かりやすくなっています。

例えば94ページのところでは、「北米の農業について」なのですが、「世界の食糧庫」というタイトルになっていて、タイトルが生徒に分かりやすい、興味を喚起しやすいように工夫がされています。

その他にも、270ページには、北海道の漁業のところでは、「獲る漁業から育てる漁業へ」というタイトルがついていて、ここの単位ではどのようなことを学習するのかというのが、タイトルを見るだけで学習内容の見通しが立つという点が大変いいと思います。

あと、右のページの下に「確認」と「表現」という振り返りのところがあるのですが、確認では、学習した内容を振り返り、表現では学習したことを活用して、まとめたり、話し合ったりして、アウトプットできます。

例えば85ページ「確認」のところでは、農家の収入の面から、カカオの生産の問題点について確認しようとなっていて、「表現」のところではフェアトレードの長所と短所を明らかにした上で、自分たちでできることを話し合おうというふうにアウトプットできるまとめになっています。

それから、2編の第2章では、6つの各州で地球的課題を取り上げています。

例えば45ページ、アジアのところでは人口問題、63ページのヨーロッパでは環境問題、アフリカでは食糧問題、南米では環境問題、都市問題などというふうに、地球的な課題を各州で取り上げています。

また、各章の導入とか、クロスロードというところで、持続可能な社会に向けて考えるページが充実しています。

最後、88ページの単元末の学習のまとめと表現などでは、ここは章のまとめのページなのですが、各ページ、見開き右下の方に「確認」「表現」などがあって、用語の解説が出ています。

288ページ、巻末にも用語解説があったり、あと、デジタルコンテンツの確認問題などがあり、自学自習に生かすことができるページが多数用意されている点が教育出版のいいところだと思います。

もう1社が、東京書籍です。

東京書籍は、まず4ページに章の構成と学び方というのが丁寧に説明されています。

各章が、課題をつかむ、追求する、解決するという3つの学習過程で構成されていて、章や節を貫く探究課題が示され、探究のステップに取組、解決していく流れとなっています。

ずっと教科書を見ていくと、常にこの章や節を貫く探究課題が意識されているということで、子どもたちが何を学んでいくのかということを常に意識して学習していけるのではないかと思います。

各章の導入部、例えば58ページの2章の導入のところでは、左のページに小学校で習ったことが書かれています。

言葉とか、習った内容について、また、小学校で学習したことを中学校ではどのような視点に注目しながら考えていくのかということが丁寧に示されています。

ここの58ページの下のところには、SDGsって何だろうということが書いてあったり、また、この導入の活動がSDGsから地球的課題を考えようとして学習を進めていくのですが、最後、この章のまとめの142ページのところに行くと、まとめの活動として「地球的課題を振り返ろう」として、世界の諸地域の学習を通じて捉えた課題をSDGsと結びつけて整理しているのが143ページです。

先ほど言った58ページの「SDGsって何だろう」というところの他にも、未来に向けて持続可能な社会の実現のヒントとなる、「未来に向けて」というコラムが21用意されていたり、あと、巻頭3ページでは、地理的分野の学習の進め方のページなど、SDGsと関連のあるページが非常に多くあるということです。

それから、各章、各節の導入のページ、例えば60ページ、61ページ、この導入ページでは、左のところに「聞かせて！中学生」というのがあって、今、ここはアジアなのですが、他にも、ヨーロッパですとか、各世界の国・地域の中学生が自分たちの生活についてコメントを書いています。

また、その下のところには、「こんにちは！」というのがある、国旗と、中国だったら「ニーハオ」とか、各国の言葉で示されています。

また、右のページでは、「世界の窓」として、自然環境や生活・文化などの6つの視点が示されていて、この節で学んでいくものが順番に書かれているので、節の見通しが立っていくということです。

あと、見開きの下部の「チェック＆トライ」、単元末のまとめの活動、巻末の用語解説など、自学自習に生かすページが豊富に用意されているところも東京書籍のよい点だと思います。

順番としては、私は、この章とか節を貫く学習の流れがいい点と、あとはSDGsにずっと関連づけて第2章を学んでいくこの東京書籍を1番にして、教育出版を2番というふうにさせていただきます。

教 育 長 それでは、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 4社、見させていただきました。それぞれ、本当に工夫がされていて、社会のみならず、注目したのは地域のあり方ということで、いわゆる総合学習、探究学習の時間につなげられるというところ、ここも随分意識した教科書になっているなど、作りになっていると思いました。

この中ではということで、先ほど来各委員からご説明のあった2社に注目したポイントなのですが、やっぱりそれぞれの作りというか、それから、この板橋区という地域は割と身近に活用しやすいというところ、そこに注目したので

すが、例えば東京書籍さんは、小学校からつながる社会科学習というのに配慮されている点で、現代的な諸課題への取組、これを多様な観点から取り上げられている点、そして、持続可能な、まさにSDGs、この実現につなげられる、向けて考える力、これを含む教科書というのを意識されているということです。

探究学習、探究課題、学習課題、それから探究のステップという問いを軸に、単元を構造化させて、課題解決的な学習、そして、主体的、対話的で深い学び、これを身につけさせようとしている点、他の教科同様に、QRコンテンツ、これは東京書籍の特技というところで、個別最適な学びを提起していると思います。

さらに、バリアフリーの観点から、UDフォントの使用ですとか、フラットデザインの採用、優しい発色、このようなところはかなり工夫がされているということは、注目に値するところでした。

また、「資料から発見」という形で、資料を活用する力を鍛えよう、76ページから始まるものですが、ここの手順や考え方も非常に生徒たちのためになるなと思いましたし、270ページからある持続可能な地域のあり方というところで、東京書籍さんは、世界というところもかなり意識したような書きぶりであったということが注目に値すると思ったところです。

もう1社、教育出版なのですが、こちらも小学校の社会との連携を図っていて、本文の中では、知識・技能を確実に身につけられるような、確認、評価、LOOK、技の各コーナーでは、思考力・判断力・表現力を高める点に非常に工夫が見られていました。

例えばなのですが、「地理の技」、これが7ページ、11ページ、この辺りを見ると、この技の中でも、これはとても重要だというふうに感じました。

子どもたちというのは、今、世界の作りはどうなっているかというところからある程度学んでいくためのいわゆる導入部分としては、まず頭の中に世界全体の地図の概要な形、外形が描けること、これが「地理の技」では、7ページ、11ページのところで、まず明確に提示されています。この辺がよかったというところ。

あと、先ほど善本委員も言われていましたが、やはり多くの国を取り上げられているという世界観、これも12ページに200近くの国々から成る世界というところを明言されている。ここはやはり注目に値します。

そして、もう1点ですが、単元のまとまりを重視されています。

学習のまとめと表現や特設ページ、これは見方考え方に重点を置いた深い学びを育むことを意識していると感じました。

278ページから始まる「地域のあり方」という中では、単純に課題を捉えるというところから、地域の課題を調べてまとめ、要するに、これが探究の学びにつながる。調査結果を整理しようというところで、総合学習、探究学習にうまく生かせるような形で手順の説明がされているなと思いました。

私の学校でも、中学3年生を中心に、防災教育といったような課題で、少し大げさですけど、卒業論文というようなものを書かせています。

その中では、まさにここの課題を捉え、調べ、そして分析をし、そしてレポー

トにまとめる、この段階をきちんと一人一人の生徒が捉えていくことが重要だということ、防災教育、防災活動の概念、SDGsにつなげていくというところがありますが、この辺について非常にうまく説明されているなということをやって、板橋もこのような教育が非常に重要だと思ひまして、ここが注目した点になります。

私も、東京書籍、教育出版、どちらかというのですが、教育出版がよいかなという形で推薦させていただきます。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、私ですが、私も同じく教育出版と東京書籍を推したいと思ひます。

どちらを選んでも、板橋区授業スタンダードにも適合しますし、使いやすい教科書と思っております。

社会科の授業は、歴史、公民も含めてですが、本文を読み解く、それから資料からもたくさん読み解く。グラフや表から読み解く、地図から読み解く。読み解く力を板橋区では重視していて、全教科、全領域でやっていますが、決してこれは国語の教科だけにとどまらず、全ての領域で活用する、力をつけるということに取り組んでいますので、社会科では、しっかりそのような力もつける必要があります。その点でも、この2社はとても活用しやすいと思っております。

教育出版は、まず巻頭のページ、2ページのところに、地球的課題とSDGsということで、やはり先ほど来出ているように、板橋区ではSDGsを非常に重視しておりますので、これがしっかりと巻頭ページで示されているということが非常にいい点だと思います。

ちなみに教育出版は、どの教科もSDGsをしっかりと入れ込んでいるという特徴があると思ひますが、開いてすぐの、この右下にあるというのは非常によいと思ひました。

また、先ほど来、委員さんもおっしゃっていますが、特設ページがありまして、ここに4つのテーマがあつて、例えばですが、230ページを見ていただくと、ここではモノから見えてくる地域ということで、お茶から分かることというページなのですけれど、持続可能な社会に向けて、クロスロードということで、SDGsと絡めて、テーマ学習もしっかりできるようなページが用意されていて、SDGsに迫ることができると思ひます。

また、これもご指摘がありましたが、学習コラムとして、「地理の窓」というのが53か所ありまして、興味関心を引くとともに、発展的な学習としても活用が可能と思ひます。

例えば211ページには、「千里ニュータウンの老朽化と対策」というページがあります。これはもちろん近畿地方を習うところで出てくることではありますが、板橋区高島平の団地などでも同じことが言えますので、このような地元と絡めて学習することが可能な話題も入っています。

全体の構成ですが、見開き2ページで分かりやすく構成されています。

新任の先生、若い先生でも、まずはこの見開き 2 ページをしっかりと押さえて、板橋区授業スタンダードに沿って授業をすれば、きちんとした力をつけることが可能になっています。

左上のところから始まって、課題、そして、目当てで、最後に振り返りのところまで、最後、右側のページの右側には確認と表現というのがあって、これに沿って進めて、見開き 2 ページをきちっと授業構成するというのが先生方に求められるのですが、非常に活用しやすい、そういう作りになっています。

また、単元末ですが、例えば 1 2 4 ページにあるように、単元のまとめのところでは、振り返り学習ということで、それぞれ他の社もございましたが、1 番は知識・技能、2 番が思考力・判断力・表現力、3 番が学びに向かう力というのが、書かれています。

どの力がちゃんとついたのかということを、生徒も確認できますが、先生もこれを基にしっかりと見ていく、あるいは評価をしていくというところが丁寧にできるようになっています。こういう作りが非常に分かりやすいと思います。

それから、各章の始まりのページになりますが、1 3 1 ページを見ていただくと、これが第 3 編の最初のページになるわけですが、ここにはこれまでに学んだこと、そして、その先までとても分かりやすく、これまでに学んだこと、さらにそれが次のどのような学びにつながっていくのかということが丁寧に書かれていますので、見通しを持った学習ができる、そういうページになっています。非常に細やかな配慮だと思います。

ということで、私は教育出版を 1 番目に推薦したいと思っております。

2 番目が東京書籍で、こちらと同じことが言えるのですが、見開き 2 ページで非常に分かりやすい構成になっています。

本文の周りに資料があって、しっかりと読み解く力をつけることが目標になっています。

巻頭ページを見ますと、巻頭 3 のところに、世界を眺める、持続可能な社会の実現に向けてということで、SDGs に関係する話題が書かれておりまして、地理ですので、特に世界に目を向けるというところがしっかりと 5 つのテーマとともに書かれているというのが非常に分かりやすいです。

また、見開き 2 ページの構成では、板橋区授業スタンダード、導入から始まって、学習課題、自力解決と集団解決をする、そして振り返りのまとめ、そこに発表を伴うということが非常にやりやすい、活用しやすい教科書になっていると思います。

それから、未来にアクセスというページがありまして、例えば 2 0 7 ページを見ますと、ここには「ごみを出さない地域づくり」というコラム的に書かれているものがありますが、発展的学習としても使えますし、テーマ、いわゆるトピックの学習としても、探究学習としても活用できる、そういうものが各所にちりばめられているのが特徴だと思います。

あとは、学習のまとめの部分は、例えば 1 8 0、1 8 1 ページをご覧くださいと、こちらは、1 番が確かめよう、2 番が探究のステップで、振り返ろう、3 番

が、「見方・考え方」を働かせて探究課題に答えようということで、こちらはど
ういう力を身につけるのかということも書かれていますし、探究学習もしっかり
と進めていくことができます。

探究学習というと、総合的な学習の時間でやろうとなるのですが、それだけで
はなくて、各教科で探究学習をしっかり進めていくということ。これは校長会で
私が申し上げていることなのですが、このようなことが社会科、地理分野ではこ
ういう形で教科書を使えば活用できるというメリットがございます。

東京書籍の特徴は、写真、地図がたくさん網羅されていて、生徒の興味関心を
引く構成になっているところがあると思います。

ということで、私は、教育出版と東京書籍を推したいと思います。

まとめますと、高野委員は東京書籍が1番で、教育出版。あとの皆様は、教育
出版が一推しで、2番目が東京書籍ということですが、高野委員、いかがでし
ょうか。

高 野 委 員 教育出版も現在使っていて大変使いやすい教科書ですので、教育出版で結構で
す。

教 育 長 他の委員の方も、教育出版ということでもよろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、お諮りします。社会（地理的分野）については、教育出版を仮採択
することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、社会（地理的分野）については、教育出版を仮採択することにしま
す。

それでは、ここで、一旦、委員会の途中ですが、休憩に入りたいと思います。
議事運営の都合により、休憩といたします。

3時15分再開ということにさせていただきます。

(休憩)

教 育 長 それでは、教育委員会を再開します。

次に、社会（歴史的分野）の審議に入ります。指導室長から説明をお願いします。
す。

指 導 室 長 社会（歴史的分野）につきましては、9社でございます。

東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版、自由社、育鵬社、

学び舎、令和書籍から採択をお願いします。

教 育 長 では、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いします。

それでは、歴史的分野に関しては、9社の教科書がある中で、それぞれ特徴や優れた点があるかと思いますが、私は、社会科の学習の中の地理的マニュアルと学習の関連性とか共通性、また、教科書の構成の共通点などを踏まえて、2社について推薦したいと思います。

まず、第一の候補として推薦いたしますのは、教育出版の教科書です。

教育出版の構成については、先ほどの地理的分野と非常に近いような構成になっていまして、先ほど地理でも申し上げましたが、単元末の学習のまとめと表現が知識・技能、思考力・判断力・表現力にきちんと整理できるような内容になっているというところがあります。

また、歴史に関して、生徒に興味を持たせるということで、教科書の冒頭、年表の後が「歴史ゲームで遊ぼう」というような構成になっていて、興味関心を持ってクロスワードパズルなどを歴史人物について行った上で、非常に特徴的な歴史へのアプローチについて、どういう歴史的な見方、考え方をするかということで、特に、今、重要と言われている比較であるとか、関連といったような、そのようなキーワードが出てきて、歴史の見方、考え方を学習でいかに進めていくかということ、また、その見方や考え方を自分たちの学習に生かすとか、教科横断した見方、考え方で歴史を学習するといったような、非常に主体的、対話的で深い学びの考え方、また、教科横断的な学びで設計されています。

また、もちろん地理も同じ構成になっていますが、特に歴史は知識伝達型の、あるいは生徒の方も記憶する、暗記する科目であるというふうなことを考えがちな中で、たくさんの項目に「表現」という言葉で項目がついていまして、様々なテーマで、その都度、説明しよう、それから、話し合おうというような形で、思考・判断・表現の、特に歴史においてはおろそかになりがちな表現の部分を非常に分かりやすく、教師がアプローチしやすいような設計になっているというところが優れた点だというふうに思います。

また、取り上げている文化遺産の数が140点ということで、全ての教科書の中で非常に多いということで、この点も優れているところではないかなというふうに思います。

また、歴史の学習を通じて問題を解決するというような意識が記述の中に非常に表れていまして、281ページのところの平和を築くためにということ、差別や偏見をなくすことや社会的な男女の不平等を解消していくことは国民の課題ですとか、全ての人々の人権を尊重し、生きがい保障される社会をつくる努力が必要だといったような、課題を子どもたちに意識させるような表現をした上で、グローバル化が進む中で、歴史の中で特に重要だと考える出来事や言葉を、キーワードの例を参考にして、その理由を説明しようみたいな、この節を通じて

何を考え、まとめていったらいいかというふうなことが大変分かりやすい形で作られていると思います。

そういう意味で、教育出版を地理の学習との関連性においても第一に推薦したいと思います。

第二に推薦いたしますのは東京書籍で、こちら先ほど申し上げたように、各章が、課題をつかむ、課題を追求する、課題を解決するというプロセスで、課題解決型の学習になっている、これが今求められる学習として非常にふさわしいものであるというふうに思います。

また、教科書の冒頭に、目次の後にこの教科書の使い方と学び方というものがきちんと説明されていて、例えば「もっと知りたい」というような発展的学習があるとか、「未来にアクセス」とか、まさに持続可能なSDGsの観点から書かれている項目にはこういうマークがついていますよというふうなことが非常に分かりやすく書かれていて、この「もっと知りたい」という項目が33か所設けられていて、発展的な学習ができるような中身になっています。

また、各章の導入部は小学校の学習内容との関連が明記されているということで、小中の接続についても非常に分かりやすい形で示されているというふうに思います。

そうした意味で、生徒の興味関心を引きながら、きちんと自ら学び、自ら考えて、そして、協働的に学んでいくということができる教科書の設計になっているというところが非常に優れていると思いますので、私は、この東京書籍を第二の候補として推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 歴史について、子どもたちが学習するに当たって、教科書で学ぶ授業の流れや、自分が自学自習するときの流れ、教科書の作りが分かりやすいものという点で、私は、まずは教育出版を選びました。

教育出版は、現在、小中学校で使用している点、それから、小学校で学んだことの接続がスムーズにできるという点、それから、文字が大きく、見やすく、見出しが太く、読みやすいという教育出版の教科書の特徴、この2点がまず大きくあります。

先ほど言った授業の流れですが、各章が導入、本文、学習のまとめと表現の3つの構成になっています。

20ページ、第2章の学習の初めのところというのを見ると、この見開きで大きな絵と写真を比べながら、これから学習する時代の特徴をつかみます。

章の問いを確認して、学習の見通しを立てることができます。

この21ページの下のところには2章の問いがあって、各節でどのようなふうに学んでいくのかという手順が書いてあります。

それから、本文の方では、右ページの下に、先ほどの地理と同じなのですが、

「確認」「表現」で何を学習したのかを振り返り、学習してきたことを活用して説明したり、話し合ったりできるという学習の流れが分かりやすく、学校の授業はもちろんですが、自学自習にも使いやすいと、この点が大変いいのではないかと思います。

92ページのように、学習のまとめという、授業をずっと進めてきて、最後のまとめのところなのですが、この見開き2ページでまとめているのですが、日本と世界の動きを年表と地図で確認した後に、資料を読み解いて、各時代を振り返り、歴史的な見方、考え方を使って時代の特色を考えて、次の章へつなげていくというふうになります。

例えば、今見ている次のページ、94ページ、95ページでは、ステップとして資料を読み解いて、中世の時代を振り返ろうというところがありますが、左のページで、古代の屋敷のふすま絵、びょうぶ絵と、それから、貨幣の写真が載っています。

これを見て時代を振り返り、次の95ページの方で、右のページの方で、次の時代、今度は近世になるのですけれど、近世のところのお城のびょうぶ絵と、それから貨幣の写真が載っていて、この2つを見比べて、時代の変化に注目させるようになっています。

また、この時代の変化のポイントとこれから学習する時代の年表、右のページの下のところなのですが、次の時代に学ぶ有名な人物、世界のつながりを年表形式で示しています。

また、次に学習するときに登場する場所の地図もあり、どのような学習を次の章ではしていくのかという見通しを持つことができます。

本文のところ、タイトルの上に、年代、時代区分を色で示した時代スケールがあって、その授業時間に学習する時代の範囲が分かりやすくなっています。

例えば48ページのところのように、「望月の欠けたることもなしと思へば」というのが、平安時代の都と摂関政治というところのタイトルになっていますが、これは藤原道長の句、「この世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」という、この句を右のページのところで示して、この句を見ながら、系図を参考にして、歌の意味を考えて、この時代の流れを考えていくというところが大変面白いというふうに思いました。

以上が教育出版です。

教育出版は、先ほど言った時代の移り変わりが見開き2ページで確認できるという点が、やっぱり一番いいのかなというふうに思いました。

次は、もう1社、東京書籍です。

東京書籍は、まず8ページに「歴史へのとびら」というところがあって、ここに小学校で学習した歴史上の人物のイラストや有名な言葉が年表のように示されています。

このイラストがどのような流れになっているのか、小学校ではどのような時代を学習したのかを話し合いながら確認するページになっています。

各章の導入のページでも小学校の社会で習ったことを確認するなど、小学校で

の学習を、歴史の流れを意識しながら中学校の学習につなげていくということができるようになっています。

また、10ページのところで、歴史を捉える見方、考え方というのがあって、時期や年代の表し方、それから、次のページで推移、それから、その後に比較というような視点を詳しく説明しています。

各章の導入では、2枚の写真や絵を見比べて考える活動が多く設定されているので、ここで学んだ歴史的見方、考え方がこの教科書で学んでいく際に大変役に立つのだらうなというふうに思います。

例えば22ページのように、各章の導入活動が設定されています。

左のページでは、小学校の社会で習った言葉を確認しています。

そして、「みんなでチャレンジ」という、左のページの下の黄色いところで、ここで絵や写真を見ながら、話し合ったり、予想したり、対話的な学習活動が設定されています。

また、右のページでは、章で探究する課題や節ごとの探究ステップが把握できて、見通しを持って学習することができます。

右のページの上の年表のところには、さっき説明した8ページのイラスト年表が使われているので、また、この下のところに、このような都能できる前の時代はどのような様子だったのかなというような、キャラクターの吹き出しの言葉が効果的に使われていて、考えるヒントになっている点もいいと思います。

あと、例えば94ページのような、まとめの活動のところでは、ステップチャートですとか、クラゲチャートなどのシンキングツールを使って探究課題を解決するようになっています。

あと、デジタルコンテンツが、動画とか、ワークシート、白地図、確認問題など、豊富にある点や、見開き下部の「チェック&トライ」や単元末のまとめの活動、デジタルの確認問題など、自学自習に生かすことができる点も大変いいと思います。

最後に、ページの右端のところに、縦に年表が示されているところも、今歴史の流れの中でどの時代を学習しているのかということを常に確認しながら学習できる点もいいと思います。

以上で、教育出版と東京書籍の2社がいいと思います。

教 育 長 では、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 もう既に皆様から出ている意見が多いというところで、少し私なりにというところで、歴史は本当に多くの教科書会社さんから注目されていて、それぞれの特徴があり、いいところもたくさんあるなという形で見てはいたのですが、やはり板橋区授業スタンダードというところがどこにあるか、少しその観点からこだわってみたというところです。

皆さんも挙げられている2社でございます。やはり少しバランスとしては、この2社がよいのではないかなというふうに思いました。

まず、教育出版さのようなのですが、構成が、いわゆる1人で学ぶだけでなく、共に学ぶ力とか、深く学ぶ力、これを育む内容構成という形になっておりまして、これは東京書籍もそこを意識されているということは教科書の内容で十分分かるのですが、持続可能な社会の実現に向けまして、課題解決に取り組むというところが強く意識できるような内容、これを充実させて、さらにそれを広げたり、深めたりする紙面、内容の工夫がされているなというところを強く感じたところです。

具体的に申し上げますと、例えば先ほどの地理の分野でもお話ししましたが、「歴史の技」というところがあります。この中で、やはり歴史的に面白いのは、例えば他の教科ではなかなか出てこない、系図を読み解こうとか、41ページですね。それから、133ページにある教科を読み解くというようなところ、これはその時代時代、あるいは、それらの系譜、これを理解する上で非常に分かりやすく、見せ方という形で、これを学ぶいい教材になるのかなと思っています。

それで、これを作るに当たっても、それぞれにQRのコンテンツ、二次元バーコードがついておりますので、興味関心に応じて深く学ぶというところにつながれるというのも、個別最適化にはよい教材なのかなということを感じました。

それから、特設ページです。

板橋の郷土愛、これをやはり深める意味では、身近な地域の歴史を調べようというものが272ページにもありますし、それから、12ページ、身近な地域の歴史を調べようという単元があります。

また、ここは板橋区も、皆さんもご承知のとおりだと思いますが、地域ごとに異なった歴史があって、非常に多様だというふうに認識しております。

これをやはり地域にいる生徒たちが調べ、まとめ、そして、それを例えば区内で共有し合うというような総合的な活動につながれると非常に面白いのではないかというふうに、その手順というところが、この特設ページで見極められる。

それから、287ページの「歴史学習の終わりに」、これは先ほど来申し上げている環境教育、それから、郷土愛、それから、「確認」「表現」、板橋区の授業スタンダードで言っているところの自力解決とか、集団解決、まとめ、振り返り、このようなものと関連づけて扱うことができ、それぞれ学校の先生方も、その辺、身近な話題ということで、連携しながら教えることができるので、非常に学びの深化にはつながれやすいのではないかというふうに思いました。

もう1つ、東京書籍も、同じ視点で非常によく練り上げられた教科書だということを感じました。

例えばですが、7ページにもう既にここをうたっている、主体的、対話的な学びから深い学びにつなげる活動項目、ここも完全に教科書の最初のところで明示してあるというところ、ここも注目すべきところと思いまして、この中で例えば先ほど教育出版のところでお話ししました、相関図を作って考察しようという、164ページ、あるいはさらに182ページにあるデジタルアーカイブを使って調べようというのがあるのですが、ここを見てもみると、取りあえず、まず1人

1 台端末があるので、事前調査をしてみよう。

事前調査の中で、デジタルアーカイブというのですね、これを事前調査として見てみて、そこで興味関心が深められたところを、例えば足を運んで調査してみようとか、そういう手順も非常に分かりやすく示されていて、これは探究活動といった意味でも、非常に導入しやすい、そういう單元ではないかというふうに思いました。

このコーナーには、スキルアップという歴史の学習に欠かせない基礎的、基本的な議論を見つけるコーナーというのも明示された形になっております。

それから、各単元のまとめの活動におきまして、学習内容を知識とか思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度といった形で整理する構成になっているというのも非常に工夫されていると思いました。

先ほどの教育出版と同様なのですが、身近な地域の歴史などにも注目していて、あと、やはり東京書籍はSDGsという形で、「持続可能な社会の実現に向けて」というところが264ページ、未来へ生かそうところでは、これも教育出版でも取り上げていますが、274ページ、これがやはり同様に、環境教育、郷土愛といった授業スタンダードに関連づけることができまして、やはり現場の先生ができるだけこの歴史というテーマに興味関心を持ってもらう、そこから踏み込んでもらうための第一歩、中学生は特にそこが重要です。

ですから、そのような意味で、この2社は非常によくできた作りなのかなというふうに感じております。

私からは以上です。

教 育 長 では、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしくお願いします。

社会（歴史的分野）について、意見を述べさせていただきます。

今回も、各種調査研究報告書、区民アンケート、保護者の立場からの家庭での活用、さらには現場の先生方のご意見を踏まえ、注目度の高い教科ということもあり、各社の教科書を慎重に拝見させていただきました。

審査の観点としては、板橋区授業スタンダードに沿った構成であること、單元ごとに学習の見通しが立てやすいこと、また教科書を通して学習の本質を理解し、自身の力として定着させられるかどうか重点を置いて確認いたしました。

今回、私が推薦する教科書は、教育出版と東京書籍をこの順に推薦させていただきます。

教育出版の教科書については、地理学習との関連性や小学校での学習内容との接続がスムーズで、公正な学習の進行や深い理解につながると考えております。内容は知識・技能、思考力・判断力・表現力に整理されており、バランスよく学べる構成になっていると感じました。

具体的には、7年生の教科書では12ページの「身近な地域の歴史を調べよう」や、280ページの「未来をひらくために」、287ページの「歴史学習の終わりに」とい

った内容が、環境教育や郷土愛に関連しており、また「確認」や「表現」が板橋区授業スタンダードに基づいた自力解決・集団解決・振り返りに関連しており、学習を深める助けとなると感じました。

さらに、デジタルコンテンツの活用やユニバーサルデザインに配慮した教材が充実しており、特にイラストの多くがカラーで、視覚的にも情景をイメージしやすい点が印象的でした。総合的にも、教科書を使った自主学習を推進する際に使いやすい、多様な学習方法が可能であると感じました。

その他のこれまで委員の先生がおっしゃられていた特徴的なところについても、共感できる場所があります。

次に、東京書籍についても非常に優れた内容となっています。学習内容は知識、思考・判断・表現、主体的に学ぶ態度に整理されており、3つの資質・能力をバランスよく学べる構成が非常に評価されました。

各章が板橋区授業スタンダードに基づいた課題解決型の学習過程に沿っており、特に対話的な学習活動が取り入れられている点に強い関心を抱きました。また、他の教科や社会科以外の分野との関連性が明記されており、横断的な指導がしやすくなる点にも期待が持てます。

同様に、デジタルコンテンツの活用やユニバーサルデザインフォントの採用も、幅広い生徒のニーズに対応しており、使いやすさが考慮されていると感じました。

まとめますと、板橋区授業スタンダードに沿って段階的に学習の見通しを立てられ、学習が進めやすい内容です。学習課題が明確で、知識の定着や説明力の育成、他教科との連携、小学校で学んだ内容とのつながりを意識させる内容になっています。探究のステップが提示され、まとめにつながる形式は、学習理解をさらに深められると考えます。

また、調べ学習の目的が分かりやすく、写真やイラスト、グラフ、資料が読み取りやすいという点も、共通して高い評価をさせていただきました。

私からは以上になります。

教 育 長 地理の場合は、今、実際にある場所のことを学ぶのですが、歴史の場合、既に終わってしまっている出来事を学ぶということですので、教科書を見て、本文もさることながら、写真ですとか、資料ですとか、それらも惹きつけていくというところが重要になってくると思います。

このような出来事があったのだと生徒たちが思うような、そういう内容になっているかどうかというのがポイントです。

もちろん主体的・対話的で深い学びを実現するとか、板橋区の授業スタンダードとか、個別最適な学び、協働的な学習、この辺りはもう他の教科と全く同じですので、そういう観点も含めて選んでみました。

私も教育出版を考えておりますが、先ほど地理のところでも申し上げたかったことと同じなのですが、冒頭のIページのところに、この教科書と一緒に学習を進めていくという生徒が6人出てくるのですが、教育出版は、よく見ると、ここに車椅子のお子さんがいる。そして、恐らく外国にルーツがあるであろうお子さ

んがいるというふうに、多様性に配慮した作りになっています。この辺りにかなりこだわりを感じます。

今、板橋区でも多様なお子さんが現実にあります。この教科書を使えば、登場人物も多様な子どもたちがいるんだということを実感してもらえるのではないかと思います。

地理も同じになっていて、全く同じ子たちが出てきます。そのことは申し上げておきたいと思います。

ほとんど委員の皆様と重なるので、時間の関係で省いていきます。メモしてきたことを全部言わないで少し絞ります。

冒頭のところで、「歴史ゲームで遊ぼう」という、4ページのところで、これが小学校の復習を兼ねているということで、小学校でも社会科で歴史学習をしていくわけですが、ゲームをしながら小学校の復習をしていくところから始まっていくという、この作りがとてもよくできていると感じました。

地理と同じなのですが、見開き2ページの構成で、これで1つの50分の授業を展開するようになっていて、先生方も使いやすいと思いますし、生徒たちも自学自習しやすいと思います。

単元名の上に、全部、歴史のスケールが書かれているということで、後で出てくる東京書籍は、右側のページの、一番右です。教育出版は単元の上のところに出てくるので、今どこを学んでいるかが分かりやすいということがございます。

この見開き2ページの本文があって、その周りに写真や資料が出てくるということで、この構成がずっと続いていきます。地理も同じなのですが、これは非常に分かりやすいと思います。

地理の繰り返しになりますが、読み解く力を重視している板橋区としては、資料ですとか、グラフですとか、写真ですとか、こういうところからしっかり読み解いていくということが授業の中で活用しやすいという作りになっています。そういう意味で使いやすいと思います。

それから、章のまとめということで、例えば140ページからの4章のまとめ、ホップ、ステップ1、ステップ2、そして、ジャンプということで、基本的な知識・技能から思考力・判断力・表現力。ジャンプになるとかなり探究的な学習が入ってくるということで、基本的な学習から探究学習まで含めて、しっかりまとめていくというところが、生徒たち自身でもできますし、先生と一緒に学びながら、その章の内容を振り返ることがきちんとできる構成になっています。

また、鎌倉時代のところを見ますと、66ページの鎌倉幕府がなぜ鎌倉なのかというところの課題、どの教科書も出てくるわけですが、写真を入れ込んできています。

全社比較したのですが、地図のところもありますし、全くないものもありますし、答えが書かれている社もありました。やはり写真で出てくる、それから7つの切通しがあるのですが、それが写真の中にプロットされているということで、この地理的背景というのは非常に分かりやすく、なぜなのかと考える手だてにしっかりとっているということ、これが東京書籍も含めてこの2社の特徴です。

こういうところのこだわりも非常に資料を緻密に考えて作られているということがよく分かります。

もう1つ、東京書籍ですが、こちらも全く同じで、巻頭17ページまで、最初のところで歴史学習をどういうふうに学んでいくのかということが非常に丁寧に書かれています。

小学校の復習から始まり、歴史ではどういう見方、考え方をするのか、資料をどう活用するのか、さらに学習の方法、これが丁寧に書かれていますので、この教科書を使うと、先生方も使いやすいと思いますし、子どもたちも自学自習がしやすいという、この辺りも非常に緻密に書き込まれているという印象です。

先ほどと同じように、見開き2ページの構成で、本文の周りに写真、資料等がちりばめられていて、教育出版と同じことが言えますが、非常に分かりやすいです。

板橋区の授業スタンダードとも適合しますし、必ず単元名の横には学習課題が書かれていて、ページの下にはチェックとトライという確認項目があるということで、振り返り、まとめがしやすいという構成になっていますので、これも非常に先生方が使いやすいです。

あと、章のまとめについても言及しますが、例えば198、199、200ページを見ますと、これは近代の学習のまとめになっていますが、丁寧に各節のまとめとして問いが書かれていまして、ここでじっくり書き込むことによって、探究的な学びもできるようなまとめの活動になっています。クラゲチャートも出てきますが、このような方法も使いながら、自分たちでまとめていくことができますので、非常に自学自習がしやすい教材になっています。

200ページは、深めようということでさらに探究をしていくということで、歴史に興味を持たせることがやりやすい教科書としてまとめているという印象を持ちました。

この2社を推したいと思いますが、教育出版が一押しです。

ということで、一押しが教育出版は、野田委員、善本委員、私ですが、高野委員、青木委員はいかがでしょうか。2つ、並列的でしたが、教育出版でもよろしいわけですか。

高 野 委 員 結構です。

青 木 委 員 結構です。

教 育 長 それでは、お諮りします。社会（歴史的分野）につきましては、教育出版を仮採択することにご異議ございませんか。

（異議なし）

教 育 長 それでは、社会（歴史的分野）につきましては、教育出版を仮採択することと

します。

では、次に、社会（公民的分野）の審議に入ります。指導室長、お願いします。

指導室長 社会（公民的分野）につきましては、6社でございます。東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社から採択をお願いします。

教 育 長 それでは、高野委員、お願いします。

高 野 委 員 公民は、現在使っている日本文教出版をまず一番に推したいと思います。

日本文教出版の教科書は、まず表紙を開けたところに、これからの社会をどのような社会にしたいという、SDGsのマークとともに子どもたちに問いかけています。

そして、次のページで地理と歴史とのつながりが書かれていて、1ページのところで、公民を学ぶに当たってというところがあります。

社会と関わり合いながら生きること、公民とは何だろう、公民を学ぶに当たっての心構えなど、地理や歴史で学んできたことを踏まえて、公民ではどのような学習をしていくのかということが書かれています。

また、巻末の1のところでは、今度、高校で学ぶ公共とのつながりについて書かれています。

そして、あと、巻末の3では、他教科とのつながりが書かれています。

ここで子どもたちがこれから公民という教科を学んでいくに当たって、しっかりと何を学んでいくのかということをイメージできるのではないかと思います。

例えば6ページのところのように、各章に学習のはじめというところが設定されています。漫画を使ってどのような学習をするのか、章の学習内容のイメージを持つことができます。

そして、章や節の問いが書かれていて、学習の見通しを分かりやすく把握できるように工夫されているページになっています。

右のページの上の方で、小学校で学習した内容を確認することができます。

また、次に、本文に入りますと、本文ページの上段には導入となる資料があって、そして、学習課題が真ん中に示されています。学習課題の下に解決の手がかりとなる見方、考え方の例が示されていて、学習を深めていくことができます。

ここでもキャラクターの言葉が効果的に使われて、子どもたちが考えていく手助けになっています。

特設ページ、「明日に向かって」というのがあります。中学生が社会に参画するための手がかりを示すページで、72ページには、「15歳は「子ども」？それとも「大人」？」や、あとは、138ページに契約について考えようなどがありますが、216ページのところに、「SDGsから未来の社会を考えよう」というところがあって、217ページですね、ここには、「脱炭素社会の実現へ」として、東京都板橋区の取組が示されています。緑のカーテンに取り組んでいる

学校の写真なども取り上げられています。

区民アンケートでも、この板橋の緑のカーテンを取り上げている日本文教出版の教科書を使ってほしいというご意見もありました。

章に関わる社会の課題を考察する特設コーナー、「チャレンジ公民」があります。

124ページ、「自分たちのまちの首長を選ぼう」というところでは、まちの課題を調べて、よりよいまちづくりが期待できる首長を選ぶ模擬選挙をするというような活動が設定されています。

その他にも、深い学びの実現をするためのコーナーとして、アクティビティが多数設定されるなど、グループで話し合っ対話的な学習ができるようになっています。

以上が日本文教出版です。

もう1社は、私は帝国書院を推薦したいと思います。

帝国書院の方は、各章の導入として、「学習の前に」が設定されており、見開き2ページの大きなイラストを読み取ることを通して、章全体の学習内容を見通し、章の問いを確認することができます。

具体的なテーマを設定して、主体的、対話的で深い学びを実践するアクティブ公民があります。

98ページに、裁判員として裁判の判決を考えよう、その他に130ページに「一人暮らしにはいくらお金がかかる」などがあります。

このページは、一人暮らしの候補地を考えたり、また生活費に幾らかければいいのかを考えたり、中学生が現実を考えながら、興味を持てる内容だなというふうに思いました。

その他、ロールプレイングをやってみようや、ディベートで議論を深めようなど、学習に必要な技能を習得する「技能を磨く」というコーナーがあります。

環境・エネルギー、防災、人権・多文化、平和・安全、情報、伝統・文化の6テーマから未来の社会をつくる取組を考える未来に向けての特設コーナーがあります。

178、179ページのところでは、そのような活動の後に、「ネクスト2030へのヒント」、2030年のSDGs達成とその先をめざしてというところがありますが、ここではSDGsの達成に向けて主体的に行動することを促しています。

また、巻末の2では、地域の防災活動に参画する中学生が紹介されているなど、中学生が身近に感じる内容が非常に多く掲載されている点がこの帝国書院のいいところだと思います。

日本文教出版が第一で、帝国書院は第二ということでお願いいたします。

教 育 長 では、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 私も、先ほど同様、板橋区授業スタンダードというのと、少し公民も意識させ

ていただきました。

この中では、まず6社の教科書が出ておりますが、やはり構成の中で、主体的に学習に取り組む態度ということを示し、明らかに内容に組み入れているというのがはっきり分かるものが、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版というところで、まず4社に絞り、さらにその中で板橋区授業スタンダードというもののかかなり意識の度合いが高いなと思ったのは、実は私は日本文教出版さんと教育出版さんというところで、2社挙げさせていただきたいと思います。

それで、まず日本文教出版ですが、各単元のまとめと振り返りというところで、この知識、思考・判断、表現以外に、主体的に学習に取り組む態度というところを構成するという形になっているのと、それから、やはり板橋区で非常に重要で取り上げられているSDGs、これについては217ページのSDGsから未来の社会を考えようで、板橋区の取組が紹介されているということですね。

また、郷土愛といったような観点、それから、身近な地域の課題ということで、これはやはり板橋区の公教育として非常にふさわしい内容ではないかということが1つ取り上げられます。

確認、表現といったところは、これも授業スタンダードと関連づけて学ぶことができます。

各単元が、自ら問いを立てて学習を見直したり、それを探究すると、そして、振り返りをすると、3つの学習過程で構成されているというところは、先ほどの高野委員の細かいご説明も含めて、非常に注目すべきところ。

二次元コードのコンテンツが105個ありまして、これは東京書籍と同等で非常に多くございます。

そして、動画やシミュレーション、ワークシート、確認問題等の利用に個別最適化という形で活用ができます。ここがやはり非常に注目すべきところかなというふうに思っているところが1つでございます。

あと、学習のはじめにという中では、やはり学校活動というふうに関連する中で、38ページ、文化祭の出し物を決めようという単元がありまして、これは少し学校を運営している立場であったりすると、非常に学校行事との関連で、生徒たちとわいわいやりながら、こういうテーマについて話し合う、熟議をするといったようなテーマとしては非常に組み入れやすい、生徒の興味関心を高めるという意味でもふさわしいなというふうに思った次第です。

一方、教育出版ですが、こちらでも学習のはじめにというのが設定されています。問い、それから、学習の見通し、これが把握できるように様々な工夫がなされています。

QRコンテンツは少し16個という形で少なくございますが、重要なものについての動画や関連リンク、確認問題等を個別最適化で学べるように工夫がされているという点は十分、教科書として練り上げられているなというふうに思った次第です。

全体のバランス、それから板橋区の授業スタンダードに照らしたときに、やはり現場の先生がある程度使いやすいという意味では、この2社かと思いました。

また、もう一步踏み込んでいくと、やはり現場の先生が使い慣れてきたという意味で、日本文教出版、先ほどの細かい点も含めて、少しこちらがお薦めかなというふうに感じました。

以上です。

教 育 長 では、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしく願いいたします。

社会（公民的分野）について、私の意見を述べさせていただきます。

今回も審査の根拠として、調査研究報告書や区民アンケートなどを参考にし、各社の教科書を拝見いたしました。

審査の観点としては、板橋区授業スタンダードに沿った構成になっていること、單元ごとに学習の見通しが立てやすいこと、教科書を読み解くことで学習の本質を理解し、自らの力として身に付けられるかどうかを重視しております。

今回私が推薦する教科書は、日本文教出版と教育出版をこの順で推薦したいと思います。

まず、日本文教出版の教科書についてですが、各單元末のまとめや振り返りで、学習内容を「知識」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理する構成になっており、これらの資質・能力をバランスよく学べる点が特徴で、学習に取り組みやすいと感じました。また、SDGsに関連し、板橋区の取り組みが紹介されているページや、環境教育や郷土愛を学ぶ特設ページも充実しており、先ほど青木委員もおっしゃってくださいましたが、地域性や時代性を反映した内容が豊富だと感じました。

さらに、各單元が「問いを立てて学習を見通す」「問いを追求する」「まとめる」「振り返る」という学習過程で構成されており、課題学習型の学習を推進できる点が、板橋区授業スタンダードに沿っているため、非常に使いやすいと感じました。また、デジタルコンテンツの活用も充実しており、二次元コードを通じて動画やシミュレーション、確認問題を利用できる点も、生徒の多様な学び方に対応していると感じます。

全体的に、現代の教育課題に対応した内容と構成が備わっており、板橋区授業スタンダードとも関連付けて学べる点が評価されました。

次に、教育出版の教科書ですが、こちらも各單元末の学習のまとめにおいて、学習内容が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の3つに整理されており、バランスよく学べる設計になっています。また、「公民の技」というコラムや思考ツールを通じて、公民学習に必要な技能や表現力、思考力の育成に配慮されている点も印象的でした。

さらに、特設ページには、持続可能な社会やSDGsに関連する内容が盛り込まれており、環境教育や郷土愛の育成にもつながる内容となっていました。これも板橋区授業スタンダードと関連付けた学習が可能であると考えています。また、二次元コードの活用も非常にしやすい構成になっています。

加えて、巻頭には小学校社会科や中学校社会科との関連性が示されており、学習の見通しを持ちやすい構成になっている点も評価されました。

全体として、生徒が主体的に学びを深めるための工夫が随所に施されていると感じました。

まとめますと、板橋区授業スタンダードに沿って段階的に学習の見通しが立てやすく、学習を進めやすい構成になっています。また、調べ学習の目的が分かりやすく、写真やイラスト、グラフ、資料が読みやすい点も評価できると感じました。特に、各社ともカラー写真を多く使用しており、視覚的に状況をイメージしやすい点から、以上の評価をさせていただきました。

私からは以上です。

教 育 長 では、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いします。

私は最後になりますので、そして、皆様と同じ2社をご推薦したいと思いますので、重複してお話があったことについては少し割愛させていただいて、特に言及がなかったであろうことについて中心にお話を申し上げたいと思います。

まず第一に推薦いたしますのは、日本文教出版でございます。

こちらは、教科書の全体の作りとして、非常に子どもたちのリアルな興味関心に寄り添う形で、色々な項目が立てられているというふうに感じます。

例えば目次を見ていて、どの教科書も、内容的にはもちろん学習指導要領にのっとっているわけですから、非常に近い形で目次設定等はされているわけですが、例えば、現在、非常に重要だと言われている金融教育について触れたところで、第3節の見出しが「金融の仕組みとお金の大切さ」と書いてあるのですね。

もう少し他の教科書は堅苦しい用語になっているのですが、金融を学んでお金の大切さを学びましょうというような表現になっていたり、あるいは、その少し上で、変化する雇用の形とか、女性の働く環境と高齢者雇用とか、他の教科書も全てそれぞれの内容には触れられているのですが、これらのことが見出しとして項立てされていないということで、非常に実生活に関心を持ったときに学びやすいような見出しの言葉の作りになっているということが言えると思います。

それについては、例えば巻末の256～257に、日本の現代史年表というのがついているのですが、他の各社でも年表的なものはあるのですが、これはいわゆる歴史の教科書に出てくるような項目が出ているものが多いのに対して、文化、社会に関する項目が取り上げられていて、例えば一番新しいところでは、スマートフォンの個人保有率が約90%であるとか、それぞれの時代の流行が書かれていたり、非常に特徴的な教材が提示されていて、生徒たちが親しみを持って教科書で学ぶということができないのかなというふうに思います。

そして、先ほど青木委員からもお話があったのですが、文化祭のことが話し合いの話題になっていると同時に、もう1つあるのが、合唱コンクールの練習スケジュールを考えようという項目でして、私ども中高一貫校にありますと、学校行

事の中で、生徒の中に温度差というか、熱意が一番違って、一番もめるのが合唱コンクールなのです。

これは本当に絶対そうなんです。体育祭とか、文化祭よりも、合唱コンクールというのが非常にもめる行事だとあるので、そのようなことをテーマ設定として、合唱コンクールは教育出版も取り上げているのですが、話し合いを漫画仕立てにしながら表現されているとか、話し合って、解決から合意を形成していくという過程を考えるのに非常に身近な話題提供になっているというふうに感じます。

また、先ほど来、言及がありますように、板橋区のことも取り上げられているという意味で、この教科書、これもまた言及がありましたが、高校の公共は新しい学習指導要領で初めて新しくできた科目ですので、そのような意味でも、公共との接続性を明記していただいているということは非常にありがたいなというふうに思います。その意味で、日本文教出版を第一候補として推薦をしたいと思います。

教育出版については、構成は、先ほど来、地理と歴史でお話ししていたことと共通していますので、同じように、学びを進めていくことができると思います。

その中で1つ、特に教育出版については、事実に基づいて事例から考えさせるという項目の内容が非常に多いということで、200ぐらいそのような項目があるということが、非常に考えさせる材料の提供が豊富にできているということが言えると思います。

また、障がいのある人に対しての言及も教育出版は非常に多く、あと、現在の課題を自分事として考えさせるという点でも大変よくできているのではないかなと思います。

構成の優れているところについては、地理、歴史、共通です。

そのような意味で、地理、歴史と横の関連性を図りながら学ぶということであれば、教育出版も非常にふさわしいだろうということで、ご推薦いたします。

私からは以上です。

教 育 長 それでは、私ですが、まず公民につきましては、民主主義、これをしっかり教える、考えさせるところも大事になってきます。

先ほど学級活動のところで申し上げましたとおり、自分たちの生活を自分たちでよりよくしていく、そのために話し合い活動するという、まさにこれが民主主義の考え方ですが、今度はこの社会科の公民的分野のところでその考え方そのものをしっかり学んでもらうということが大事なので、その観点も大事にしながら選択をいたしました。

まず日本文教出版ですが、1、2ページのところで、冒頭の1、冒頭の2ページですが、これは見開きで、開くとまずSDGsが出てくるということで、板橋区としてはこれを大事にしてみましたので、SDGsを踏まえて公民を考えていくということはポイントになると思います。

また、その後続く、目次の後の4ページ、5ページ、ここで教科書の構成と学び方というページがありまして、公民的分野はどのように学んでいくのかとい

うのが明確に書かれています。

これも先ほどと同じように教師用の指導書としても十分活用できますし、生徒自身がこれを見て、自学自習できるという視点でも、こういうページがきちんと書かれているのはとてもありがたいと思います。

全体は見開き2ページの構成になっていて、学習課題から始まって、さらにその下に見方・考え方が出てきます。

本文があって、周りには資料が様々な形で、漫画仕立てのものもありますが、書かれていて、読み解く力もつけながら考えることができる、そういう構成になっているのが特徴だと思います。

右下の方にいきますと、確認と表現ということで、振り返りとまとめのところも使えるということで、まさに板橋区授業スタンダードに適合した形になっているのが非常に活用しやすいだろうと思います。若い先生方、経験の少ない先生方でも取組やすいと思います。

それから、重なりますが、章の最初のページということで、例えば128、129のところですが、これは第3編の最初のところで、経済のことを学んでいく最初のところなのですが、漫画仕立てになっていまして、非常に興味を引く、ハンバーガーをどうするのというところとか、円安の影響がどうだとか、非常にタイムリーで身近な分かりやすい話題を取り上げながら入っていくという、章の最初のところが導入編として分かりやすくページが構成されています。こういうところも非常に魅力的な教材になっています。

もう1つは教育出版で、既に地理と歴史と同じ構成になっていますので、この見開き2ページのところの分かりやすさとか、SDGsのこともありますが、この点は同じなので省きます。

やはり民主主義をどう考えるかということでいうと、先ほど来、青木委員、善本委員からもお話がありましたが、こちらは85ページに、クラスで合唱コンクールの曲を決めるという、まさにそのことが書かれていまして、しかも学校のルールを変えようと思ったときにどのような方法が考えられたのかという問いもあります。

今、板橋区の中学校で、結構、自分たちで校則を変えていこうということで、生徒会活動が非常に盛り上がっていて、きちんと取り組んでいます。

そういう点でも、この公民的分野で、9年生で公民は学ぶと思うのですが、こういう課題が入っているということは非常にやりやすいだろうと思います。

色々な形で工夫がされていて、学習指導要領の社会科の目標にある公民的資質を育てるという、ことが可能な教材になっていますので、この2社を推したいと思います。

皆さんからもご指摘があったように、日本文教出版は、何ととっても217ページに板橋区の実践、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにするという取組をしっかりと取り上げていただいているということはポイントが高いと思います。日本文教出版を一押しでと思います。

ということで、皆さんが推しているのは日本文教出版ということで、あとは高

野委員が帝国書院で、その他の方は教育出版ということですが、一推しは全員が日本文教出版ということですので、こちらでよろしいですか。

(はい)

教 育 長 それでは、お諮りします。社会（公民的分野）につきましては、日本文教出版を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 では、社会（公民的分野）については、日本文教出版を仮採択することとします。

次に、地図の審議に入ります。指導室長、お願いします。

指 導 室 長 地図につきましては、2社でございます。東京書籍、帝国書院から採択をお願いします。

教 育 長 それでは、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 2社ですので、どちらかということになります。

毎回、この地図については、本当に甲乙つけがたいという形で、どちらも非常に充実している、見やすいというところではあります。

中身を毎回細かく見ている中では、やはり板橋区授業スタンダードというところに、そこにどうしてもこだわってしまうわけですが、現場の先生方はどこが使いやすいのかなということを念頭に置きながら考えているというところでございます。

そうしますと、実は、すみません、これは個人的な話にもなってしまうのですが、私の勤めている学校の先生の先生に実は色々この教科書採択については聞いています。

意見を聞いているだけなのですが、地図、2社、どっちですかねという話になったときに、やっぱり授業で使いやすいのは帝国書院さんという意見が実は出ておりまして、その点も少し現場の先生の意見を聞きながらやっぱり見ていて、どこがという話をしたときに、すごく細かいところでやっぱり使いやすいという話があったというのが1つございます。

また、現在、板橋区の先生方にも、やはりこの帝国書院さんの地図は便利に使っていただいて、とりわけここがというような意見も出ていないような状況ではございます。という点、細かい点は他の委員さんからご意見があるかと思うのですが、これら全体的な意味から、帝国書院さんを推薦したいと思っております。

以上です。

教 育 長 では、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 私も審査の観点として、地図帳の活用、地理的情報の収集、他教科への効果的な活用、そして何よりも「見やすさ」と「使いやすさ」を主なポイントとしております。

私も帝国書院を推薦いたします。先に述べた観点から、地図帳としての活用を重視すると、記号や色分け、索引、縮尺、距離の表示など、見やすさへの工夫が随所に見られました。また、地図帳の使い方に関しても、気候や地形、防災、工業、水産業など、社会科における地理的分野全般に対応していることが感じられます。

さらに、地図帳の構成も非常にバランスが取れており、地域ごとの分量配分が適切で、日本を含めた各地域や世界の情報を総合的に学習することができると感じました。デザイン面でも、二次元コードやユニバーサルデザインフォントの採用により、生徒が自主的に学習を進めやすい環境が整っていると感じました。

また、鳥瞰図やイラストを用いることで、生徒の興味を引き出し、積極的に学習に取り組む姿勢が育まれる印象を受けました。加えて、47都道府県の位置関係や水源の確認は、社会科の学習にとどまらず、災害、台風、エネルギー、産業など、他の教科でも活用できることから、さらなる使いやすさを感じました。

以上の理由から、このような評価に至りました。

私からは以上です。

教 育 長 善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いいたします。

地図として見たときには、どちらも非常に優れていて、本当にこっちだけではなくてはいけないというものはもう全くないということで、この点で、先ほど冒頭に申し上げましたが、非常に細かく数字面で東京都教育委員会が調査研究資料を出しているのです、この教科書に関しては、私はそれを頼って判断をいたしました。

索引に記載されている地名の数が、世界に関しては、東京書籍が1, 358点で、帝国書院で1, 753点。

地図帳はどういうふうに使われるかというと、授業だけではなく、学習の際の様々なレファレンス活動に使うということを考えると、項目が情報として多い方がやはり優れていると言えるのではないかと。

日本の地名に関しても、東京書籍では2, 159、帝国書院が2, 555ということで、世界、日本、いずれもレファレンスできる地名の数が多いということ、それから、資料の目的別の分類で、それぞれみんな本当に甲乙つけがたい中で、生活や文化や歴史に関する資料が、東京書籍は16点、帝国書院が37点ということで、相当に差があるということで、やはり社会科の学習を通して、生活とか文化といったものについて学んでいくということは非常に重要だろうなというふうに思いますので、そのような観点が1つあるかなということと、地図等の種類

についても、鳥瞰図その他の地図の種類が、平面図自体も数の上でも帝国書院の方が多いですが、鳥瞰図その他の地図が、東京書籍が5点に対して、帝国書院が51点ということですので、そのような種類の豊富さ、バラエティーの多さ、情報のボリュームがあるということで、そのような意味で比較したときに、帝国書院に軍配が上がるかなということで、帝国書院としたいと思います。

教 育 長 では、高野委員、お願いします。

高 野 委 員 現在、小学校でも帝国書院の地図を使っているので、小中接続の視点で、帝国書院がよいのではないかと思います。

まず、巻頭のこの地図帳の凡例とか、この地図の使い方が大きく項目別に分かりやすく提示されています。

小学校で学習した地図の約束を振り返ろうというのがあって、ここでも小学校で学習したことが生かされてきて、接続がスムーズにできるのではないかなと思います。

また、本当に2社共に大きく鮮明で使いやすくなっていたり、SDGsを中心とした現代的な諸課題を捉える特集ページや、自然災害の分布やハザードマップなどを通して防災に対する意識を高められる点など、資料が豊富なところは2社共通していますが、1つ、帝国書院だけにあったのが、世界の地図に同緯度、同経度、同縮尺の日本列島のシルエットがあって、49ページにあるのですが、その地図のところで、世界の地図と日本を、緯度、経度、大きさを比較することができる点が、これは帝国書院だけにあるのかなと思いました。

その他、両社共にいいのですが、先ほど申し上げたように、小学校で使っているという、そのような接続面で帝国書院がいいと思います。

教 育 長 では、私ですが、同じく帝国書院です。

やはり見やすいです。色合いがとてもよくて、地図は生徒たちが見たときに、見やすいということが要素としては一番大きいと思います。

それから、冒頭のページ、8ページから14ページまで使って、地域で考える持続可能な社会という特集を組んでいるということで、SDGsのことに非常に力を入れているということも伝わってきます。

鳥瞰図では、例えば65、66ページの北アメリカを見ますと、この中に小さくイラストが書いてあってイメージしやすいです。

それぞれの生活、どういうものが獲れるのかというのが絵になっているということで、鳥瞰図の中のこういう小さい、それぞれ特徴ある絵が描かれているというのも見やすいと思います。

それから、読み解く力という点では、東京書籍も含めて、どちらも資料が豊富で、じっくりと資料やグラフから、あるいは写真や絵から読み解くということ是可以ので、板橋区としては読み解く力を重視していますので、どちらを使っても十分それが活用できると思いますが、やはり帝国書院の方が少し工夫が多いと

感じます。

それから、さりげないことですが、裏表紙のところに学年と組を書くのですが、これが3学年分用意されているというのが違うところです。

地図帳は7、8、9年生と使っていきますので、ありがたい、こういう配慮もなされています。

1つだけ、これは昨年の小学校の採択でも申し上げたのですが、東京の中心部については言っておきたいと思います。帝国書院は、東京の中心部というと山手線というふうに捉えていて、そうすると、135ページ、136ページなのですが、板橋区は出てこない。

ところが、東京書籍を見ると、109ページ、110ページ、もう少し広く捉えてくれている。そうすると、左上に板橋区が書かれてくるのです。

ぜひ、次の改定で帝国書院に工夫をしていただきたいと思います。毎回、申し上げているのですが、この点だけは東京書籍さんの方がいいと思います。全体としては帝国書院を活用したいと思います。

ということで、5人一致して帝国書院ですので、それでは、お諮りいたします。地図につきましては、帝国書院を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、地図については、帝国書院を仮採択することとします。

それでは、次に、数学の審議に入りますが、審議が少し長引いて、仮に午後5時を過ぎた場合でも、議事運営の都合上、数学の審議が終了するまで、会議の時間を延長いたしますので、皆様、ご了承ください。

それでは、数学の審議に入ります。指導室長からお願いします。

教 育 長 数学につきましては、7社でございます。

東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、数研出版、日本文教出版から採択をお願いいたします。

教 育 長 では、野田委員、お願いします

野 田 委 員 よろしく申し上げます。

数学について意見を述べさせていただきます。

数学は非常に重要な教科だと考えております。現在使用されている教科書や各種調査研究報告書、区民アンケートを事前に参考にし、特に保護者の立場から、家庭での活用や家庭学習、自学自習の教材としての使い方を重視しております。

また、数学の授業について学校現場を訪問した際、多くの学校で少人数制の進度別授業が行われている様子を拝見しました。個々の学習進度に応じて、教科書を用いた自主学習で苦手を克服し、得意分野を伸ばすことが重要であると感じております。

審査の観点としては、板橋区授業スタンダードに沿った構成であること、単元ごとに学習の見通しが立てやすいこと、教科書を通じて学習の本質を理解し、それを自らの力として身につけられるかどうか、また、7年生の教科書では小学校算数からの導入がスムーズであるか、8年次以降ではこれまで習ったことをどう生かすかといった点を主なポイントとして確認いたしました。

今回、私は東京書籍、大日本図書の順で推薦させていただきます。

東京書籍の教科書では、目次に小学校で学んだ単元とのつながりが記されており、小学校で学習した内容を基に発展的な学習ができるようになっています。これにより、小学生の学習内容を振り返りながら基礎に戻って復習することが可能であると感じました。また、「深い学びのページ」が思考力・判断力・表現力の育成に寄与し、学習過程を可視化しやすい点も評価しました。

単元ごとの問題数も適切で、巻末には補充問題があり、これまでの学習内容を振り返るのに役立つ構成が非常に良いと感じました。また、「math connect」マークによって、日常生活の中で数学がどのように関わっているかが確認でき、数学を学ぶ重要性を実感できる点も良いと考えました。

さらに、観点別チェックボックスやハートマークによって、問題の重要度や重視すべき見方・考え方が明確に示されており、生徒が学習の優先順位を把握しやすい構造になっている点も評価しました。二次元コードが豊富に掲載されているため、デジタルコンテンツを活用して自主学習や単元の理解を深める助けになる点も良いと思いました。また、視覚的配慮として、イラストを使って考え方を導き、理解を促す工夫がなされている点も評価しました。

次に、大日本図書の教科書についてですが、問題数が非常に豊富で、巻末には発展的な問題や「力を伸ばそう」のセクションがあり、基礎を身につけた後に難易度の高い問題に挑戦できる点が良いと感じました。これにより、生徒が自主学習に取り組みやすい教科書だと考えました。

「社会にリンク」や「発見！仕事の中の数学」などのページはキャリア教育にもつながり、問題発見から解決までの流れが明確で、学習過程を可視化しやすい点も評価しました。また、オレンジの枠で強調された「めあて」を理解するポイントや、具体的な数字を使った解法の手順が記載されており、自力解決を促進しやすい構成になっている点も良いと感じました。さらに、巻末の赤シートで重要な部分を確認できる付録は、振り返り学習に便利なツールとして非常に有用だと考えました。

最後に、学校図書の教科書について少し触れます。素数に関するページでは、ページ番号が素数でない場合にその数字が素因数分解された式が記載されています。この工夫は、常に「数字」に関連した意識を持たせるという点で非常に優れた取り組みだと思いました。残念ながら、8年生、9年生の教科書にそのような記載がないので、できれば8年生、9年生の教科書にもこの素数が意識できるようにしていただきたいというところと、その他の会社さんも、このようなところはぜひとも導入していただきたいと思いました。

まとめとして、東京書籍と大日本図書の教科書は板橋区授業スタンダードに沿っ

た構成で、今後の学習につなげやすい記載が各所に見られ、小学校からの接続を意識した教科書の使い方が工夫されています。また、各学年を通じて学習の見通しが立てやすく、単元の系統性や学習のつながりが分かりやすいと感じました。個別最適な学びに向けた学習目標も意識しやすく、学校現場での進度別学習や、生徒にとっても教員にとっても使いやすい教科書であるという点から、以上の評価とさせていただきます。

私からは以上となります。

教 育 長 では、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いします。

数学の教科書に関しては、どの教科書も基本的な、基礎的な内容から発展へというような流れが非常に明確で、当然ですが、押さえるべきことは全て押さえられていると、そういう意味で、どの教科書も優れていると思います。

その中で、特にこれからの時代に必要な数学の学びがどのようなものであるかという観点から、2つの教科書を推薦したいというふうに思います。

1つは東京書籍の教科書なのですが、先ほど野田委員からも様々に説明があったところですが、この教科書の1つの特徴でもあろうかと思うのですが、最初に0章が設定されていて、小学校の学びからつながっていくということが書かれているのですが、ただ、復習のようなものではなく、ここにある決まりを見つけさせるということで、0章だけでも、新しい学習にもなっていると、単に覚えることではなく、そこに規則性を見出すというような考え方が込められているということ、それから、それぞれの学年で、これは非常に数学と結びついた職業の研究がありまして、これが非常に大きいと思っています。

日本の理数教育は、STEAM教育と言われる中で、SとMしかなくて、ScienceとMathematicsだけで、間をつなぐ、要するに現実の生活とのつながりとか、自分の職業とかの結びつきが非常に弱いことが今の日本の理数教育の課題だというふうに言われていますので、そのような意味で、このキャリア教育の視点でも、板橋区の教育ビジョン2025のキャリア教育ということを実践させるという視点でも、数学の学びが例えば伝統工芸士というような職業に結びつくというような視点で描かれているというのは新しい視点であって、これから子どもたちが学んでいくのにふさわしいというふうに言えるというふうに思います。

もちろん、それぞれクイックチェック問題があって、基礎的な知識と技能が定着できるように、あるいは深い学びという項目があって、発展的に、あるいは課題解決できる、数学といえば問題を解くという印象が強いわけですが、その学習のプロセスを大事にして、課題解決的な学びをするというようなことがきちんと配慮できているというところも大変よいところではないかというふうに思います。ということで、東京書籍の教科書を第一に推薦いたします。

私からは、第二に推薦いたしますのは啓林館の教科書です。

啓林館は、最初にもう開いていたときに、扉のページの中で、ICTの活用で広がる数学の学習という項目になっていまして、GIGAスクール構想で1人1台端末が今実現しているわけですが、それに関するコンテンツのメニューが非常に充実していて、合計154点、その中で、動画が28点、「動かす」28点、スライドショー8点、リンク5点、考え方・解説等が29点、補助問題57点と、非常に多岐にわたっていて、数学でやはり立体的な感覚をつかむという意味でも、動かしたり、動画を見たりということは非常に大事だと思います。

その部分が大変重要視されるところで、そこにきちんと視点を置いて、これからの学びに必要なということが大変意識されているかなと思います。

一方で、どういう場面でどのように数学を勉強するかということもある中に、ノートを工夫して学習に役立てようという項目があって、数学のノートをどういうふうに工夫していったらいいかというふうな、最初に学ぶに当たって大変重要な要素がきちんと押さえられているというところもありまして、発展的な内容に対するボリュームも、非常に十分考えているのですが、例題で、問題というふうに、きちんと順に構成ももちろんされていて、それぞれの現時点での習熟度に応じた学びを取っていくことが可能なのではないかなというふうに思います。

そのような意味で、啓林館の教科書を第二の候補として推薦をしたいと思います。

以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 数学は学校でも授業の流れが分かりやすいことに加えて、生徒たちが教科書を使って基礎的なことから発展的なことまで、自分のペースに合わせて自分で学ぶことができるという点を大切にしていって見えてきました。

最初に、東京書籍の教科書です。

東京書籍の教科書は、4ページから、大切にしたい数学の学び方というページがあります。ここで授業での主体的な学び方を詳しく説明しています。

そしてまた、次に、7ページのところに、数学マイノートというところで、ノートやタブレットを使つてのまとめ方が記載されていて、生徒が主体的に学習する手助けとなっていると思います。

次に、先ほど野田委員も触れられていたのですが、表紙の裏見開きで、教科書のテーマを、math connect、数学のつながりとして、身の回りや社会など、様々な数学のつながりを探してみようというふうになっています。

例えば1年の149ページでは、遊園地での待ち時間を予想するためにはというところで、比例と反比例の利用などの考え方を使ってこの問題を解いていくというものなどがあります。

また、各章、各節の導入でも、身の回りの生活にある学習につながるものを取り上げています。

例えば2年の126ページでは、運動場にサッカーコートを作るというときに、

1本のロープを使って直角にラインを引く方法、これは二等辺三角形の性質を使って実際に校庭にラインを引く方法、また、3年の195ページでは、はしご車のはしごはどのくらいの高さまで届くのかということを、三平方の定理を利用して考えるなど、生徒が興味を持って学習に取り組める導入があります。

あと、その他にも、社会で働く人とのインタビューを通して、数学と仕事のつながりを学ぶページがあり、2年の90ページでは、気象予報士の方の言葉の他に、実際に桜の開花日を予想してみようということで、一次関数のグラフを使って桜の開花日を予想するという作業をしています。

このように、色々な社会とのつながりということが、数学を身近に感じさせ、実生活で生かせるような取組がたくさん見られます。

その他、問題の重要度に合わせて、子どもたちが自分に合わせた問題を選んで、学習できるというような工夫がされています。

また、デジタルコンテンツの活用方法が2ページ、3ページ、それから、裏表紙の内側などに明記されていて、3ページでは授業での使い方が書かれています。

そこには、授業での使い方に加えて、右側のところに、自学自習でこのような使い方をしてみようというように、自学自習に対しての提案もここに書かれています。

以上の内容で、私は東京書籍が一番いいのではないかなと思います。

2番目は大日本図書です。各学年の冒頭で教材の使い方が詳しく示されていて、自分で取り組むべきものが示されていて、主体的に学ぶことを促しています。

11ページでノート作り方の例が示されている。また、1単位時間で扱う内容が分かりやすくなっていて、めあてが赤ではっきり示されていて、その後、基本的な確かめ問題だとか、難易度を上げたQ、それから、プラス・ワンというふうに丁寧に進めることができ、生徒が自分に合った学習ができるようになっていきます。

あと、1年の第1章は、数の世界の広がりには焦点を当てて、素数や自然数などの学習を正負の数の学習の前に設定しています。これは小学校との接続を図っています。

また、1年の280ページには、小学校算数の振り返りのページがありますが、これが6ページにわたって、既に学習した内容を記載するだけでなく、確認のための練習問題も用意されています。

こちら、小学校との接続という点で、大日本図書もいいなと思います。

一番は東京書籍、二番が大日本図書です。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 私自身の専門分野が理工系ということ、それから、中高一貫の学校も今校長をしているというところ、その視点がどうしても頭の中にあるということ、その中で、今、理系人材の育成というのは社会で求められていること、この辺からやはり考えてしまうというのが前提にあります。

板橋区授業スタンダードというのは一番強く意識するところですが、私の中では、今、非常に日本全体で理系人材の育成の中で重要だと思います。先ほど善本委員が言われたSTEAM教育、これは本当に大事だというふうに考えています。

特に数学の中では、やはり論理的思考、そして、新しく情報、データサイエンスを学ぶということが大事です。

今はもう大学に行っても、経済学部や商学部でもデータサイエンスが分かっているかないと、もうゼミの論文が書けないということを言われている時代です。

ということは、文系だとか、理系だとかということを言っている時代は終わって、皆さんが、全ての生徒がこの数学的思考という考え方を学ぶ時代に入ってきているということが一番重要だと考えています。

そのような意味で、やはり昔々は数学なんていうのは社会に出ても何の役にも立たないなどということを言われていた時代から、今、そこまで変わってきているということを意識して、数学の教科書がどこまでよく作られているかということに注目しました。

各社さん、本当にその辺はかなり意識されていて、先ほどの委員からのご指摘もあったように、社会との学び、あるいはキャリア教育とのつながりといったところを意識された単元が多いと思っております。

全体的なバランスを考えたときに、やはりもう1つ大事な個別最適化、これを意識した中では、やはりQRコンテンツの充実度が非常に重要です。

先ほど高野委員からもご指摘あった、それから善本委員のご指摘にもあった、これが整っているという、充実しているのは、もちろん東京書籍、そして啓林館、この2つになります。

ですので、個別最適化というところを進める意味、習熟度別というのは、少人数教育を実際にやっている学校も多くございます。板橋区の中学の中でもクラス別にやっているというところを見ますと、やはりそこに合わせ込んだ、自宅でも学習できる、振り返りができるQRコンテンツの充実が非常に重要だと思っています。この2つがやはり一番多い。それから内容も充実しているということになります。

この中で、東京書籍は、とにかくQRコードが一番多いのですが、とにかくバランスがいいということがあります。そして、私が注目したのは、大体後ろの章にあるデータサイエンス、確率・統計、そして、分析、討論、そこの書きぶりを見ました。

やはり注目して、東京書籍は、すごくそこに取り上げられているテーマが、こういう言い方が適切かどうか分からないのですが、全ての生徒が取りつきやすい、例えば部活動の中での、生徒さんの人数に関わっている問題、度数分布ですね、50m走の記録を度数分布表に整理したものという扱い方をしています。

そして、身近な問題を取り上げて、それをデータサイエンスにうまく結びつけるような単元を設けているところが注目すべきところです。

一方、啓林館は、確実にいわゆる高校へのつながり、あるいは大学へのつながりを意識したようなテーマになっています。

整理されたデータの中からも、例えば物理の耐久時間の問題ですとか、かなり専門の理数教育を意識したようなテーマをもう中学から入れている。ここの違いです。

したがって、これは学校の方針にもよるのですが、理数教育に力を入れたいという、私ども私学みたいなどころでは、啓林館は合っているなというのを、正直、感じて、実際に学校でもこちらを使っています。

ただ、ここは本当に考え方の問題で、板橋区の授業スタンダードで考えると、東京書籍は、デジタルコンテンツの充実度、それからバランスがよい、誰でも興味を持てるような単元、これを設けているというところから考えると、板橋区には東京書籍がいいのかなというふうに考えまして、1番には東京書籍と、2番目には啓林館さんを推薦させていただきます。

以上です。

教 育 長 それでは、私ですが、私は中学校の数学の教員をしていたことがございますので、あの頃にこのような教科書、どの会社のもそうですが、これがあれば、もっともっと楽しい、生徒にも楽しんでもらえる授業ができたのと思うぐらい、本当によくできている教科書だと思います。

生徒たちが自学自習もできますし、若い先生も授業しやすい作りになっています。

数学は、色々な統計調査を見ても、大体、生徒から一番嫌われる教科ですので、いかにして興味関心を持たせるのか、あるいは、どうしても苦手な子にとっても、何とか食いついてくるような授業ができるかということで、私は若いとき、「数が苦」から「数楽」へと称して、楽しい授業をやってきたのですが、やはり教科書の作りというのは非常に大事だと思います。

そういう意味では、今の生徒たちは本当に幸せだなと思います。あと、いかにして先生方がこれを上手に使いながらやっていただくかということをまず考えていきたいと思います。

もちろん、数学ですので、論理的な思考力とか、数学的な表現、そして、数学の授業でも読み解く力、これはグラフですとか、式を読み解くとか、そういう力もしっかりとつけてもらう必要がありますので、それがやりやすい教科書を選ぶということが必要です。

それから、先ほど委員さんからもお話があったように、社会とのつながりです。

数学というのは何のためにあるのと思うのですが、いかにして実社会の中で数学が使われているのかということを実感してもらえるようなページが入っている、そういう工夫がされている教科書は必要だと思います。

一方で、個別最適な学びというのをこれからやっていく上で、既に実験的にやっている先生も板橋区には出てきておりますが、自由進度学習、特に単元内の自由進度学習をやる上で、特に算数・数学はやりやすいと思います。

自分のペースでどんどん進める子は進んでいいということです。もしかすると単元も取っ払って進んでもいいという可能性も出てくるぐらい、これから研究を

深めていきたいと思っています。

その上で、本当に自学自習がしやすいという教科書を数学は特に選ぶ必要があるという観点で選びました。

やはり東京書籍が優れていまして、授業スタンダード、問題をつかんで、見通しを立てて、問題を解決する、振り返ってさらに深めるという、板橋区の授業スタンダードに一番使いやすいのが、東京書籍だと思います。

実際、4ページ、5ページのところに、大切にしたい数学の学び方というのが書かれているのですが、これを読んだら授業スタンダードそのものですので、このとおり学校の先生方がしっかり取り組んでいただければ、板橋区教育委員会が求めるいい授業になっていくと思います。

あとは、もう皆さんがおっしゃっていただいたとおり、重なりますが、キャリア教育の視点も入っていまして、伝統工芸士さん、消防士さん、それから、3Dのアートクリエイターさんも出てくるということで、どのように数学が社会の中で使われているかというのも書かれています。

また、中三の教材では、203、204ページで富士山がどれくらい遠くから見えるかというのを数学的に解き明かしていくということで、三平方の定理を使うのですが、こういう非常に興味関心を引くような話題も取り上げられています。

それから、野田委員もおっしゃっていましたが、問題の量も的確で、問題の中にハートマークがついている、これだけはもう基本的に逃がすことができないという視点が入っていて、こういうのも分かりやすい表現です。

また、中2の証明のところではつまづく子が多いのですが、例えば141ページなどを見ていただくと、証明のところは、バックが少し色を変えて非常に見やすくなっている。ここは証明のところだと分かりやすくなっているというのも魅力的です。

ということで、総合的に見て、東京書籍を推したいと思います。

2番目に、私は大日本図書で、理由は、小学校は今大日本図書を使っているということです。板橋区では学びのエリアということで、中学校区の周りの小学校と一緒に、様々な小中一貫教育を進めています。

その視点で、算数・数学に関しては、9年間を見通した教育課程とか、授業構成とか、小中の枠を飛び越えて学習するというのが自由進度学習などで可能になってくると思うのです。そうなったときには、同じ会社の方がより使いやすいだろうと思います。その視点で、大日本図書を選ぶのもありということで、2番目に推したいと思います。

中身については、既に触れていただいた委員の方もいらっしゃるのですが、全く同じですが、キャリア教育の視点も入っていますし、巻末の資料にもとても興味を引くようなものが入っています。

また、中3の11ページ、ノートの取り方というのも、これはどの学年も入っていましたが、丁寧に書かれていて、数学でもしっかりノートを取っていくということが、端末だけではなくて必要になってきますので、そのことも書かれているというのがとても大事だと思っています。

ということで、私は東京書籍が1番で、2番に大日本図書を推したいと思います。

さて、まとめますと、全員が東京書籍を1番に推しておりますので、これでお諮りしたいと思いますが、よろしいでしょうかね。

(はい)

教 育 長 では、お諮りします。数学につきましては、東京書籍を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、数学については、東京書籍を仮採択することとします。

議事運営の都合上、本日の審議は以上で終了といたします。

次回の教育委員会では、理科から審議をいたします。残りの種目については、8月22日木曜日に教育委員会を開催して審議いたします。

開催時間は午後1時から、開催場所は区役所北館11階、第一委員会室での開催となります。

次回の教育委員会につきましても、初めに令和7年度区立小中学校使用教科用図書採択に関する議案及び請願を審議し、終了後、その他の議案を審議する予定です。

それでは、以上をもちまして本日の教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

午後 5時 2分 閉会